

ムルナリ

第四百四十五條 行法官ハ施政廳及裁判所ニ法律書ヲ送達シ其送達セシトヲ証セシメ其証ヲ民選議院ニ差出スヘシ

第四百四十六條 行法官ハ孰レノ法律ト雖モ假リニ之ヲ立ヘカラス唯法律ニ從ヒタル布告ヲ出シテ法律ノ施行ヲ命シ或ハ之ヲ記憶セシムヘシ

第四百四十七條 各州ニ於テ施政官アリ各郡ニ施政下官アリ

第四百四十八條 州官ハ總テ人民名代タルノ任ナシ唯國王ノ命令及意思ヲ受ケ施政ノ事務ヲ勤ムル爲メ國民ヨリ假リニ委任スルモノナリ

第四百四十九條 州官ハ立法權ノ施行ニ關スルト法律ノ施行ヲ差止ム

ルヲ裁判上ノ兵隊ノ動行スルトニ少シモ關スヘカラス

第四百五十條 州官ハ直稅ヲ配賦シ及己ノ管轄内ノ總テノ租稅及公ノ歲入ヨリ生スル金錢ヲ檢査スルトヲ特ニ委任セラル、トナリ右ノ事及州内施政ノ他ノ事ニ至ル迄州官ノ職務ハ民選議院之ヲ定ムヘシ

第四百五十一條 州官ノ法律或ハ王命ニ違背セシ處置ハ國王之ヲ取消スノ權アリ○州官續テ王命ニ背キ或ハ己ノ處置ヲ以テ國ノ安寧平和ヲ害スルハ國王其職務ヲ一時免スルヲ得ヘシ

第四百五十二條 州官ハ法律或ハ己ノ決定或ハ己ノ郡官ニ傳達セシ命令ニ背キテ爲セシ郡官ノ處置ヲ取消スノ權アリ○郡官續テ其命令ニ背キ或ハ己ノ處置ヲ以テ國ノ安寧平和ヲ害スルハ州官其職ヲ

一時免スルノ權アリ、尤其場合ニ於テハ州官必ス之ヲ國王ニ報知スヘシ、國王ハ其罰ヲ赦シ或ハ承決スルコトヲ得ヘシ

第五百五十三條 州官前條ニ記シタル場合ニ於テ郡官ニ對シ其權ヲ用ヒサルハ國王直ニ郡官ノ處置ヲ取消シ或ハ其職務ヲ一時免スルヲ得ヘシ

○佛蘭西 一千七百九十三年

第六十二條 行政院一箇ヲ設立スヘシ其編制スルノ人數ハ二十四人トス

第六十三條 右ノ爲メ各州ノ撰立會議ハ行政院ノ役ノ爲メ一人ヲ選ビ民選議院ハ各州ノ撰立會議ヨリ進メタル人ノ名簿ノ内ヨリ二十

四人ヲ撰舉スヘシ

第六十四條 民選議院ノ變改スル毎ニ行政院官員ノ數ノ半ハ改選スヘシ但民選議院ノ末ノ議會ノ終リシ月中ニ此交代ヲナスヘシ

第六十五條 行政院ハ一般ノ政事ヲ引導シ及檢査スルコトヲ委托スルモノニシテ民選議院ヨリ爲セシ法律及布令ヲ行ハシムル爲メ外執レノ處置ヲ爲ス能ハス

第六十六條 行政院ハ共和國ノ一般ノ施政ヲ依托セララルヘキ首官ヲ委任スヘシ但此官員ハ行政院ノ官員ノ中ヨリ撰舉スル能ハズ

第六十七條 前條ノ首官ノ數及職務ハ民選議院之ヲ定ムヘシ

第六十八條 此首官ハ相分レ互ニ交際ヲナスヘカラサルモノニシテ一ノ會議ヲ編制スルモノ、如キニ非ス且行政院ノ權ニ代ル者ニシ

テ自ラ權ヲ行フヲ得ス

第六十九條 行政院ハ共和國ノ國外在勤官員ヲ委任スヘシ但之ヲ行

政院ノ官員中ヨリ撰舉スル能ハス

第七十條 行政院ハ外國トノ條約ヲ決議ス

第七十一條 行政院ノ官員ハ其義務ヲ失フ時ハ民選議院之ヲ訴フヘシ

第七十二條 行政院ハ法律ノ執行ニ就キ責ヲ任スヘシ又行政上ニ就

テ不法ノ處置ヲ心付クト雖_レ之ヲ原告セサル_レハ之ニ就テ責ヲ任

スヘシ

第七十三條 行政院ハ已レ撰任スルヲ得ヘキ官員ヲ免職シ代員ヲ任

スヘシ

第七十四條 行政院ハ已レ委任セシ官員不法ノ所業ヲ行フ_レハ之ヲ

訴フヘシ

第七十八條 共和國ノ各邑ニ一ノ邑政官アリ各部ニ傳令官アリ各州

ニ中央ノ州政官アルヘシ

第七十九條 邑政官ノ官吏ハ邑民議院之ヲ任ス

第八十條 各州及各郡ノ州政官ハ其州ノ撰立會議及其郡ノ撰立會議

之ヲ任ス

第八十一條 邑政官及州政官ハ年々其官吏ノ半ヲ改撰スヘシ

第八十二條 州政官及邑政官ハ名代タルノ職ナシ

民ニ代リ事ヲ爲サス唯人民ヨリ命シタル職ヲ爲スノミナリ

ヲ變革シ其成行ヲ差停ムル能ハス

第八十三條 民選議院ハ邑政官及州政官ノ職務ト其等級ト從命規則ト及其罰則ヲ定ム

第八十四條 邑政官及州政官ノ會議ハ來聽ヲ許スベシ

○佛蘭西 一千七百九十五年

第三百二十二條 行政權ハ民選議院國民ノ名義ヲ以テ選立會議トシテ選任セシ五人ノ者ニ委托スルコナリ

第三百二十三條 五百員議院内密評議ニテ其選任スヘキ督理官ノ官員ノ十倍數ノ人名ヲ記シタル人員書ヲ作り且之ヲ老人議院^{シレントワール}ヘ進達スヘシ老人議院ハ内密評議ニテ其人員書ニ記シタル人名ノ内ニ就テ委任スヘキ人ヲ選擇スヘシ

第三百二十四條 ^{シレントワール}ノ官員ハ四十歳以上ナルヘシ

第三百二十五條 ^{シレントワール}ノ官員ハ民選議院ノ議員ノ職ヲ勤メシ者及卿ノ役ヲ勤メシ者ノ内ニ就テノミ之ヲ選舉スヘシ

第三百三十六條 共和政事以來ノ第五年ノ正月一日以後民選議院ノ議員ハ其勤務中及其退職セシ日ヨリ後ノ年中ハ^{シレントワール}ノ官或ハ卿ノ役ヲ委任サル、能ハス

第三百三十七條 ^{シレントワール}ノ官員ハ毎年官員一人宛改選スル方法ヲ以テ之ヲ全ク變改スルコナリ初メ委任シタル官員ノ内毎年退職スヘキ官員ヲ定ルニ初ノ四年間ハ抽籤ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三百三十八條 退職セシ官員ハ退職セシ日ヨリ五ケ年ノ後ナラサレハ之ヲ再任スル能ハス

第三百二十九條 宗系ノ親屬又卑屬兄弟伯叔父及姪從弟及右下同級ノ姻屬ノ親ハ同時ニシレクトワーレノ官員トナル能ハス且シレクトワーレノ官員ハ退職ノ後五年ヲ過キサレハ右ニ定タル本人ノ親屬或ハ姻屬ノ親等ハシレクトワーレノ官職ヲ任スヘカラス

第四百十條 シレクトワーレノ官員死去シ或ハ免職ニナリ或ハ他ノ孰レノ譯ニヨリシレクトワーレノ役欠クルキハ民選議院十日ヲ過サル時間ニ其代役ヲ選任スヘシ初ノ五日間ニ五百員議院右ノ役ヲ委任セントスル人ヲ勸告セサルヲ得ス後ノ五日間ニ其選任ノ所業ヲ成就スヘシ且右ニ從テ委任シタル者ハ本人退職ノキヨリ勤ムヘキ残りノ年期ノミ任スヘシ但残りノ期限六ヶ月以下ナレハ選任シタル者ハ後ノ五年ノ終リマテ勤ムヘシ

第四百十一條 シレクトワーレノ官員ハ各順次ニシレクトワーレ長ノ役ヲ三ヶ月間勤ムヘシ長タルモノハシレクトワーレノ各義ヲ以テ花押シ且シレクトワーレノ印ヲ保存スルモノナリ○法律及民選議院ノ決定書ハシレクトワーレ長ノ各義ヲ用ヒ之ヲシレクトワーレヘ送達スベシ

第四百十二條 シレクトワーレハ其官員ノ内三人以上出席セサレハ評議スヘカラス

第四百十三條 シレクトワーレハ己ノ官員ノ外ヨリ選ヒタル人ニ書記役ヲ命シ都テ決定ノ副本ニ花押セシメ且評議ノ調書ヲ格別ノ簿冊ニ記セシムヘシシレクトワーレノ官員ハ各己ノ存意及其譯柄ヲ其簿冊ニ記入スルヲ得ヘシ○シレクトワーレハ其書記役ヲ用ヒス

シテ評議セントスル節ハ之ヲ爲スヲ得ヘシ其場合ニ於テコレクト
ワールノ官員一名其評議ノ調書ヲ格別ノ簿冊ニ記スヘシ

第四百十四條 コレクトワールハ法律ニ從テ國ノ内外ノ保護ヲ供ス
ヘシ○法律ノ執行ノタメ法律ニ從テ公達ヲ爲スヲ得ヘシ又國兵ヲ
用ユルヲ得ヘシト雖モコレクトワールノ官員共ニ國兵ヲ率ユル能
ハス且コレクトワールノ執レノ官員モ其勤務中或ハ退職ノ後二年
間國兵ヲ率ユル能ハス

第四百十五條 コレクトワールハ國內或ハ國外ノ安寧ニ對シテ謀叛
ヲ企ツル者アルヲ聞入ル、キハ其謀叛ノ首謀及附從ナルコトヲ思慮
スルモノニ對シ捕票及拘引スヘキ命令書ヲ發シ且之ヲ自ラ鞫問ス
ルヲ得ヘシト雖モ二日ヲ經テ之ヲ法律ニ從テ裁判セシムル爲ニ其

者ヲ警視役所ヘ必ス送ルヘシ如シコレクトワールノ官員ハ其法式
ニ背クキハ不法ノ捕留罪ノタメ罰ヲ言渡サル、ヲ得ヘシ

第四百十六條 コレクトワールハ總大將ヲ委任スヘシト雖モ之ヲ已
ノ官員ノ第三百三十九條ニ定タル級親屬及姻屬ノ者ノ内ヨリ選舉ス
ル能ハス

第四百十七條 コレクトワールハ已ノ委任シタル名代ヲ用ヒ諸支配
所及裁判所ニ法律ノ執行ヲ檢査シ且慥カム

第四百十八條 コレクトワールハ已ノ官員ノ外選舉シタル者ニ卿ノ
役ヲ任シ且隨意ニ之ヲ免職スヘシト雖モ之ヲ二十九歳以下ノ人ノ
内及已ノ官員ノ第三百三十九條ニ記シタル級ノ親屬及姻屬ノ内ヨリ
選舉スルヲ得ス

第四百十九條 諸卿ハ其配下ノ官員ト直ニ往復ヲナス

第四百十條 民選議院ハ已ノ卿ノ數及其職制ヲ定ムルコナリ但卿ノ

數ハ少クモ六人多クモ八人アルベシ

第四百十一條 諸卿ハ集會スル院ヲ設クルコナシ

第四百十二條 諸卿ハ法律及シレクトワーニ決定ノ不執行ニ付各

已ノ管スル事務ノ責ニ任スベシ

第四百十三條 シレクトワーニハ各州ノ直稅ノ收納官ヲ委任ス

第四百十四條 シレクトワーニハ不直稅及國有財産ノ支配首官ヲ任

ス

第四百十五條 不ルトフラン區及リユニオン島ノ外都テ佛屬國ノ官

員モ戰爭ノ終リマテシレクトワーニ之ヲ任スヘシ

第四百十六條 シレクトワーニハ民選議院ノ免許ヲ受ケ都テ佛屬國

ヘ一人或ハ場合ニヨリテ數人ノ名代ヲ差出スヘシ但シレクトワー

ニハ其名代ヲ勤ムヘキ年期ヲ定メ之ヲ委任ス○シレクトワーニ

名代ハシレクトワーニト同様ナル役ヲ勤メ且其配下ニアルモノト

ス

第四百十七條 シレクトワーニノ孰レノ官員モ其退職ノ日ヨリ二年

過キシ上ナラサレハ共和國ノ領地ヲ立去ル能ハス

第四百十八條 シレクトワーニノ官員退職スルモ其後ノ二年間ニ

已ノ國地ニ在留スルコトヲ証明セサルヲ得ス○民選議院ノ議員ノ保

護ニ管スル第四百十二條ヨリ第四百二十三條ハシレクトワーニノ官員

ニモ之ヲ通用スベシ

第五百十九條 一レクトワールノ官員ノ内三人マテ告訴セラル、場
合ニ於テハ民選議院常例ノ法式ヲ以テ代役ヲ任シ其裁判ノ終リマ
テ勤メシムヘシ

第六十條 第六十九條及第二十條ニ記シタル場合ノ外五百員議院
或ハ老人議院ハ一レクトワールヲ召シ或ハ一レクトワールノ官員
ノ内孰レノ官員モ召スヘカラス

第六十一條 一レクトワールハ兩院ヨリ己ニ爲シタル計算及政事
上ニ付テノ質問ニ書面ヲ以テ答フヘシ

第六十二條 一レクトワールハ公費ノ計書經濟ノ形勢書現ニ拂フ
所ノ養老金及己ノ存意ニ付テ新ニ定ムヘキ養老金ニ付テノ見込書
ヲ年々民選議院ノ兩院ヘ差出スヘシ但右ノ事ニ就テ爲シタル過度

ヲ心付クキハ之ヲ其書面ニ記スヘシ

第六十三條 一レクトワールハ孰レノ時ニモ五百員議院ヘ書狀ヲ
差出シ一ノ事件ニ付テ其熟考ヲ願フヲ得ヘシ又其院ニ處署ヲ勸告
スルヲ得ヘキト雖モ右ノ爲メ法律ノ議案ノ文式ヲ用ユヘカラス

第六十四條 凡一レクトワールノ官員ハ一レクトワールノ會議所
ヲ立サルヲ得ヘキト雖モ民選議院ノ免許ヲ受ケサレハ不在ノ期限
ハ五日ヲ過クヘカラス且一レクトワールノ會議所ヨリ四ミリヤメ
一ト四里ヨリ遠地ニ離ルヘカラス

第六十五條 一レクトワールノ官員ハ己ノ家屋ノ内外ヲ論セス勤
務ヲ掌ルキハ必ス其禮服ヲ着セサルヲ得ス

第六十六條 一レクトワールハ共和國ノ雜費ヲ以テ備ヘ置キタル

警衛ヲ有ス右ハ歩兵百二十人騎兵百二十人ヲ以テ編制スルモノナ

第百六十七條 公禮式ノ節
シレクトワー
ルハ第一ノ列ヲ爲ス且其警衛ハ必ス伴フヘシ

第百六十八條
シレクトワー
ルハ各官員ハ他出スル毎ニ警衛隊ノ二人ヲ伴フ可シ

第百六十九條
シレクトワー
ルハ全官或ハシレクトワー
ルハ各官員番所ノ前ヲ通行スルキハ番兵最上ノ禮式ヲ行フ可シ

第百七十條
シレクトワー
ルハ公然ノ使者四人ヲ用ユシレクトワー
ルハ其使者ヲ任職シ且免職スルヲ得可シ右使者ハシレクトワー
ルハ書狀及見込書ヲ民選議院ノ兩院ヘ持參スル者ナルニヨリテ兩院

ノ會議所ニ入ルコトノ權ヲ有ス公然ノ使者出行毎ニ使吏二人其前導ヲ爲ス可シ

第百七十一條
シレクトワー
ルハ民選議院集合スル處ノ邑ニ住居ス可シ

第百七十二條
シレクトワー
ルハ各官員ハ同館ニ住居ス可シ且其住居ノ雜費ハ共和國ヨリ之ヲ出ス可シ

第百七十三條
シレクトワー
ルハ各官員ノ俸給ハ年々麥五萬ミリヤグラ
量ノ直ニ定ムルコトナリ

第百七十四條
州政官一箇アリ各區ニ少クモ邑政官一箇ヲ設ク可シ

第百七十五條 凡州政官邑政官ノ官員ハ二十五歳以上ノ者ナラサル

ヲ得ス

第百七十六條 宗系ノ親屬及卑屬兄弟伯叔父及姪及右同級ノ姻屬ノ親ハ同時ニ同州ノ州政官或ハ同區ノ邑政官ノ官員トナル能ハス且右官員退職ノ後二年ヲ過キサレハ其官員ノ右ニ定タル親屬及姻屬ノ親同州ノ州政官或ハ同區ノ邑政官ニ勤仕ス可ラス

第百七十七條 各州ノ州政官ハ五人ヲ以テ編制スル者ニシテ毎年官員一員ヲ改選スルヲ以テ其全官ヲ五年目ニ變改ス

第百七十八條 居住人五千人ヨリ十萬人迄ノ邑ニ於テハ格別ノ邑政官有ル可シ

第百七十九條 凡居住人四千四百九十九人以下ノ邑ニ於テ邑政官吏一人及副官一人有ル可シ

第百八十條 一區ノ各邑ノ邑政官吏ノ總會ハ區ノ邑政官ナリ

第百八十一條 各區ニ於テ其邑政官吏ノ内撰任シタル區ノ邑政長有ル可シ

第百八十二條 居住人五千人ヨリ一萬人迄ノ邑ニ於テハ邑政官吏五人アルヘシ居住人一萬人ヨリ五萬人マテハ邑政官吏七人五萬人ヨリ十萬人マテハ邑政官吏九人アルベシ

第百八十三條 居住人十萬人以上ノ邑ニ於テハ邑政官三人以上アルヘシ右邑政官ノ區部ヲ定ルニ各邑部ノ居住人ノ數ハ三萬人ヨリ少ナカラス五萬人ヨリ多カラサル様爲スヘシ右邑部ノ邑政官ハ七人ヲ以テ編制ス

第百八十四條 數箇ノ邑政官ニ分レタル邑ニハ其邑ノ總體ノ人民ニ

管スルニヨリテ分ツ可ラサル用務ヲ掌ル中央局アルヘシ民選議院ハ其分ツ
ヘカラサル用向ト見做 右中央局ハ州政官ヨリ委任シ且シレクト
ルヨリ定立シタル官員三人ヲ以テ編制スルモノナリ

第百八十五條 凡邑政官ノ官吏ハ二年間委任シ且毎年其官員ノ半數
ヲ改選スヘシ若シ其半數ヲ改選スル能ハサルハ半數ノ最近キ數
ヲ改選シ其翌年ニ至リ改選セシ人數ヲ全數ヨリ差引殘員ノ數ヲ
改選スヘシ又翌年モ右ノ如ク一年ハ小數ヲ改選シ其翌年大數ヲ
改選スルヲ以テ續キテ邑政官ノ官吏ノ全部ヲ二年目ニ改選スベ
シ

第百八十六條 州政官ノ官吏及邑政官ノ官吏ハ續キテ右職ヲ再度選
任サル、ヲ得ヘシ

第百八十七條 凡二度續テ州政官或ハ邑政官ノ官吏ニ選任シ其職ヲ
兩度勤シ後二年間ヲ過キシ上ナラサレバ新ニ右職ニ選任セラルヘ
カラス

第百八十八條 州政官或ハ邑政官ノ官吏ノ内一人或ハ數人死去免職
或ハ他ノ事故ニヨリテ缺役スルハ其残り官吏ハ自ラ仮ノ官吏ヲ
選舉シ其後ノ州政官或ハ邑政官ノ選立ノ期限マテ之ヲ勤シムヘシ

第百八十九條 州政官或ハ邑政官ハ民選議院或ハシレクト
決定ヲ變改シ又其執行ヲ停止スル能ハス右ハ裁判官ニ屬スル事務
ニ管スヘカラス

第百九十條 州政官及邑政官ハ己ノ領地ニ直稅ヲ配賦スル、及其領
地ノ歲入ヨリ出ス金錢ヲ檢査スル、ヲ特任ス右ノ用務及都テ他ノ

施政ノ分ニ就テ州政官及邑政官ノ職務ノ法式ハ民選議院之ヲ定ム

第百九十一條 選レクトワールハ各州政官及各邑政官ノ側ニ已ノ委

任シタル名代ヲ立シムヘシ其名代ハ選レクトワールヨリ免職スル

ヲ得ヘキ者ニシテ法律ノ執行ヲ請求シ且之ヲ検査スルトナリ

第百九十二條 各州政官及各邑政官ノ側ニ勤ムル選レクトワールハ

名代ハ其州政官或ハ邑政官ヲ設立シタル州内ニ一年以上住居シタ

ル國民中ヨリ選舉セサルヲ得ス且其年齡二十五歳以上ノ者タルヘ

シ

第百九十三條 邑政官ハ州政官ノ配下ニアリ州政官ハ諸卿ノ配下ニ

アリ依テ各卿ハ該省ノ事務ニ管スル州政官ノ處置法律或ハ上官ノ

命令ニ背ク所ハ之ヲ廢止スルヲ得ヘシ又邑政官ノ處置法律或ハ其

上官ノ命令ニ背ク所ハ州政官之ヲ廢止スルヲ得ヘシ

第百九十四條 諸卿ハ法律或ハ上官ノ命令ヲ犯ス州政官ノ官吏ヲ停

職スルノ權ヲ有シ州政官ハ邑政官ノ官吏ニ對シテ同様ノ權ヲ有ス

第百九十五條 孰レノ處置ノ廢止或ハ官吏ノ停職ニモ選レクトワール

ハ公然ノ裁決ヲ經タル後ナラテハ確定ノモノトセス

第百九十六條 選レクトワールハ州政官及邑政官ノ處置ヲ直ニ廢止

スルヲ得ヘシ且州政官ノ官吏或ハ區ノ邑政官ノ官吏ヲ直ニ褫職シ

或ハ停職スヘキト思慮スル所ハ之ヲ爲ヲ得又場合ニヨリテ其官吏

ヲ州ノ裁判所ヘ送ルヲ得ヘシ

第百九十七條 前條ニ從テ處置ノ廢止或ハ官吏ノ褫職ヲ記シタル決

定書ニハ其譯ヲ記入スヘシ

第九十八條 同州ノ州政官ノ五人ノ官吏共禡職サル、シテハ督理官
 ハ州政官ノ後ノ任選マテハ代役ヲ自ラ任スヘシト雖_レ其代役ヲ同
 州ニ於テ已ニ州政官ノ役ヲ勤シ者ノ内ヨリ選舉スヘシ
 第九十九條 州政官及區ノ邑政官ハ法律ヨリ已ニ委托シタル事務
 ニ付テノミ往復スルヲ得ヘキトニシテ共和國ノ總体ノ用務ニ付テ
 之ヲ爲ス能ハス

第二百條 凡州政官及邑政官ハ年々其掌管シタル總事務ニ就テ復命
 ノ屆書ヲ差出スヘシ但右屆書ヲ板刻スヘシ

第二百一條 都テ州政官及邑政官ノ決定書ハ其局ニ備ヘ置タル簿冊
 ニ記入シ且其簿冊ノ看覽ヲ人民ニ免スヲ以テ之ヲ公然ニナスヘシ
 但右簿冊ハ六ヶ月目ニ之ヲ釘シ且之ヲ釘シタル後ノミ其局ニ備ヘ

ヘ置クヘシ尤民選議院ハ之ヲ備ヘ置クタメ定タル時間ヲ延期スル
 ヲ得ヘシ

○佛蘭西 一千七百九十九年

第三十九條 政事ヲ支配スルノ權ハ宰相三人ニ委托スルコトナリ其コ
 ンシユルハ十年限リ委任スル者ト雖_レ幾度ヲ限ラス復任セラル、
 ヲ得ベシ○右三人ノコンシユルハ各別ニ委任スル者ニシテ第一等
 ノコンシユル第二等ノコンシユル第三等ノコンシユルノ位號ヲ之
 ニ附加ス可シ

今般建國法ニ於テ右ノ爲メ左ノ國民ヲ委任スルコトナリ

第一等コンシユル元ト假リノコンシユルノ職役ヲ勤シ堡郡巴氏

第二等コンシユル元ト司法卿ノ役ヲ勤シカンバセル区氏
第三等コンシユル元ト元老院ノ委員ヲ勤メシロブレ氏○但第三
等ノコンシユルハ五年限リノミ委任ス

第四十條 第一等ノコンシユルノ職務ハ他ノコンシユルノ職務ト格
別ナリ○如シ第一等ノコンシユル出勤スル能ハサルキハ己ノ同役
ノ内一人假リニ其職務ヲ代理スベシ

第四十一條 第一等ノコンシユルハ法律ヲ班布シコンセンサス國議院ノ議官ト特
命全權大使及他ノ公使ト海陸軍ノ士官ト各所ノ行政官及各裁判所
ノ檢事役トヲ隨意ニ委任シ且免職スルコナリ又治安裁判役及覆審
院ノ裁判役ヲ委任スト雖モ之ヲ免職ス可カラス

第四十二條 前條ニ記シタル用務ノ外都テ他ノ處分ニ就テハ第二等

及第三等ノコンシユルハ評議ノ權ヲ有スベシ右コンシユルハ其出
席ヲ證明スル爲メ議事ノ簿冊ニ調印ヲナシ且己ノ存意モ之ニ記ス
ルヲ得ヘシ尤之ヲ記セシ上事ノ決定ハ第一等ノコンシユルノ獨意
ヲ以テ之ヲナスヲ得ベシ

第四十三條 第一等ノコンシユルノ年給ハ千七百九十九年中ハ五十
萬ヲラレ我ニ十錢也ト定メ第二等及第三等ノコンシユルノ年給ハ第一
等ノコンシユルノ年給ノ十分ノ三ト定ム

第四十四條 政府ハ法律ヲ勸告シ及法律執行ノ爲メ要スル規則ヲ設
ク

第四十五條 政府ハ國ノ出入金高ヲ定ル各年ノ法律ニ從テ國ノ出入
金ニ管スル事務ヲ指導シ貨幣ノ鑄造ヲ注意ス但貨幣ノ發行ト位價

ト重量及模様ヲ決スル者ハ法律ナリ

第四十六條 國家ニ對シテ謀叛ヲ企ツル者アルヲ聞及ブキハ其謀叛ノ首謀及附從ナリト着意スル者ニ向テ捕票ヲ發ルヲ得可シ尤其捕ヘタル日ヨリ十日ヲ經テ之ヲ放免シ或ハ規則ニ從テ裁判所ヘ訴ヘザレハ右捕票ヲ調印セシ卿ハ不法ノ捕留ノ罪ヲ犯セシ者トス

第四十七條 政府ハ國內ノ安寧及國外ノ防禦ニ備ヘ海陸軍ノ兵ヲ全領分中ニ配置シ且其動用ヲ定ム

第四十八條 出行保國兵ハ行政ノ規則ニ服從ス可シ在地ノ保國兵ハ法律ニノミ服從ス

第四十九條 政府ハ外國ト政事上ノ交際ヲ守行シ諸談判ヲ指導シ假ノ定約ヲナシ都テ平和ト同盟ト戰爭ノ廢止ト局外中立ト貿易トノ

定約及他ノ都テノ條約ヲ結ヒ及之ヲ花押セシム

第五十條 起戰ノ告書ト平和同盟及貿易ノ定約書ハ法律ト同様ニ之ヲ勸告シ評議シ布告シ及班布スベシト雖モ右ニ付テノ第一等ノ民選議院及民選議院ニ爲シタル評議及議決ハ政府ノ願ニヨリ之ヲ内密ノ會議ニ爲スヲ得ベシ

第五十一條 一箇定約ニ期シタル内密ノ箇條ヲ以テ公然之ニ記シタル定約ノ箇條ノ意ヲ取消ス可カラズ

第五十二條 國議院ハ宰相ノ指導ヲ受テ法律ノ議案及行政ノ規則ヲ作り及施政ノコニ付テ起ル所ノ難事ヲ裁斷スルコトヲ委托セラレ

第五十三條 民選議院ニ於テ政府ノ名ヲ以テ發議ヲ爲スヘキ者ハ初終國議院内ヨリ之ヲ選拔スルコトナリ一箇ノ法律議案ノ論ヲ助ケル

ニ議官三人以下ヲ民選議院ヘ送ルヲ得ベシ

第五十四條 諸卿ハ法律及行政規則ヲ執行セシム

第五十五條 政府ノ孰レノ決定書ト雖モ卿一人之ニ加印セザレハ効ナカルベシ

第五十六條 諸卿ノ内一人ヲ定メ國幣ノ支配ヲ之ニ委托ス即此卿ハ金錢ノ上納ヲ實正ニシ法律ニ從テ金錢ヲ遞送スベキヲ及拂渡スベキヲ命スベシ右卿ハ金子ヲ拂渡サシムルニ左ノ規則ニ從フベシ

第一 其金子ヲ拂フベキト定ル法律有ラザレハ之ヲ爲スベカラス且之ヲ拂フベキト定ル法律アルニ於テハ其法律ニ記シタル金高ノミヲ拂渡スベシ

第二 其金子ヲ拂渡スベキノ政府ノ決定ニ非ラザレハ之ヲ爲スヲ得ス

第三 卿一人ヨリ調印シタル手形ニ依リテノミ之ヲ爲ス可シ

第五十七條 各省ノ雜費ノ明細計算書ハ其卿之ニ實正ヲ證スルノ與書ヲ加ヘ且之ニ檢査印ヲ調セシ上之ヲ公布ス可シ

第五十八條 政府ニ於テ國議院議官或ハ卿ノ役ニ委任シ且續キテ用ユルヲ得ベキ者ハ公用職役ニ任ズルヲ得ベキ國民ノ全國連名書ニ記名シタル者ニ限ル

第五十九條 各邑ノ管轄或ハ邑ヨリ大ナル領分ノ爲メ設タル地方ノ施政官ハ諸卿ノ被官ナリ孰レノ人モ第七條及第八條ニ記シタル連名書ノ内一通ノ連名書ニ記名シタル者ナラザレハ右施政官中ノ役

ニ任ズルヲ得ス又右施政官中ノ役ヲ勤シ者ト雖モ如シ其名ノ右連
名書ニ於テ取消サル、トハ退役セザルヲ得ス

第七十二條 諸卿ハ左ノ件々ニ付テ必ス責ヲ任スベシ

第一 自己ノ調印セシ都テノ政府ノ決定ノ内其建國法ニ背キタル
旨ヲ元老院ヨリ申立テラレタル決定

第二 法律及行政規則ヲ執行セサル事

第三 建國法ト法律ト行政規則ヲ犯シテ己ノ發シタル格別ノ命令

第七十三條 前條ニ記シタル場合ニ於テハ第一等ノ民選議院ハ公書
ヲ以テ其卿ヲ民選議院ヘ訴ヘ民選議院ハ本人ヲ召シ或ハ其論ヲ聞
シ後平常ノ法式ニ從テ其公書ニ付テ決議ヲ爲ス可シ民選議院ノ布
令ニヨリ裁判スベキ卿ハ大審院一箇所之ヲ裁判スベシ但右裁判ヲ

控訴裁判所及覆審裁判所ヘ控訴スルヲ得ス○大審院ハ裁判役及陪
審ヲ以テ編制スル者ニシテ右裁判役ハ覆審院ニテ己ノ裁判役中ヨ
リ選任スヘシ陪審ハ全國連名書ニ記名シタル國民中ヨリ選任スベ
シ但右選任ハ法律ニ定タル法式ニ從テ之ヲ爲ス可シ

第九十條 孰レノ官モ其編制スル官員少クモ三分ノ二出席セサレハ
決議ヲナスヲ得ス

第九十一條 佛蘭西屬國ノ行政ノ体裁ハ格別ノ法律ヲ以テ之ヲ定ム
可シ

○佛蘭西一千八百
十四年

第三十八條 政府ノ孰レノ決定モ一省ノ事務ヲ總理スル卿一人此決

定ノ告書ニ加印セザルヲ得ス

第三十九條 諸卿ハ己ノ加印シタル政府ノ決定ニ付テ責ニ任シ且法

律ノ施行ニ付テモ責ニ任ス

第七十三條 屬國ノ政治ニ付テハ格段ノ規則ヲ設ク可シ

○佛蘭西一千八百五十一年

○千八百五十一年十二月二十日及二十一日ノ投票ニ因リ佛蘭西人
民ノ路易拿破崙保那巴ニ授ケシ威權ヲ以テ制定シタル憲法

第四十九條 共和政治ノ大統領ハ參議官ノ上席ヲ爲シ若シ大統領不

在ノ時ハ大統領ヨリ參議官副長ノ任ヲ與ヘタル者其上席ヲ爲ス可

シ〔千八百五十二年十二月廿五日換フ〕

第五十七條 邑政ノ規則ハ別段ノ法律ヲ以テ之ヲ定ム可シ○邑長ハ

行政官ヨリ之ヲ任ス可ク邑會議院ノ員外ニ於テ選舉スルヲ得可
シ

○佛蘭西一千八百五十二年

○千八百五十二年一月十四日ノ憲法ヲ釋明シ且之ヲ更改スル千八
百五十二年十二月二十五日ヨリ三十一日ニ至ル元老院決定書

第三條 憲法第六條ニ循ヒ結ヒタル貿易ノ條約ハ其條約ニ於テ裁定

シタル稅則ヲ改更スルト雖モ猶法律ノ力アリトス

第四條 公同ノ資益トナル可キ諸般ノ工業殊ニ千八百三十二年四月

廿一日ノ法律ノ第十條及ヒ千八百四十一年五月三日ノ法律ノ第三

條ニ記スル工業並ニ其他總テ國ノ裨益トナル可キ諸般ノ起作ハ皇

帝ノ勅書ヲ以テ之ヲ命令シ又ハ允許ス可シ

此勅書ハ行政規則ノ爲メ定メタル法式ニ從ヒ之ヲ記ス可シ
然レ政府ノ會計局ニ於テ人民ト契約ヲ結ヒ又ハ人民ヲ資助シテ工
業及ヒ起作ヲ爲サントスル時ハ其工業及ヒ起作ヲ爲ス前ニ法律ヲ
以テ其金額ヲ備フ可キヲ允許シ又ハ其契約ヲ允准ス可シ
政府ノ利益ノ爲メノミニ施行シテ人民ニ任ス可カラサル種類ノ工
業ヲ急速ニ行ハント爲ス時ハ臨時費用ノ金額ヲ備フ可キ爲メ定メ
タル法式ヲ以テ其金額ヲ備フ可シ但シ議院ノ最近ノ集會ノ時其旨
ヲ告ケテ其允許ヲ受可シ

○英吉利

卷一第四十五條 凡ソ審判官保長州官及縣官等ノ職ハ法律ヲ能ク熟

知シ且之ヲ固守スル者ニ非レハ決シテ之ニ任スヘカラス

第四十八條 凡森林兔園及森林官兔園官河渠及河渠保縣官并ニ其屬
吏ノ慣習規則等弊害アル者ハ直ニ之ヲ審查セン爲ニ先ツ各州ニ於
テ其州良民ヲシテ其州ノ大夫十二人ヲ撰舉セシメ且之ヲシテ誓詞
ヲ立シメ審查ノ後先ツ之ヲ朕又大審判官長ニ告ケ四十日內ニ其弊
害ヲ悉ク除去シ以後再ヒ之ヲ釀成セサル様ニ爲スヘシ

卷五第六章 凡宰相百官ハ將來子孫萬世ニ至ル迄必ス此法律ニ由リ
以テ時ノ皇帝ヲ輔佐セスンハアルヘカラス○大臣ノ責任定ル
第七章○第八章 以上三章ハ第一章二章等ニ伸明シタル條件ヲ巴里
門ニ於テ古例ノ文體ニ改メ再ヒ伸明シ以テ永世ノ國法ト爲スヲ
證スルノ文也故ニ之ヲ畧ス

各省ヲ設ル毎ニ必ス左ノ事務執政ヲ立ツ則チ會計事務宰相大璽官
 樞密議長樞璽官租稅事務宰相內國事務宰相屬州事務宰相印度事務
 宰相陸軍事務宰相等はナリ尙他ニ事務宰相アリテ通常席ヲ省内ニ
 取ル其數五人ヨリ八人ニ變リ始終一定セス就中百工事務宰相海軍
 事務宰相通商事務宰相樞密議官副長驛遞事務宰相愛爾蘭事務宰相
 救民事務宰相等はナリ而シテ其位高ク或ハ才德頗ル顯著又時ノ輕重
 ヲナシ或ハ須要ノ助ヲ與ヘ若クハ其用省内ニ願ハシキ人ヲ舉テ此
 員ニ充ルト云フ
 一千八百六十八年十二月九日ニ肇リ一千八百七十年并ニ一千八百
 七十一年ニ改リシ現今ノ各省官員左ノ如シ
 會計事務宰相 大璽官

樞密議長

樞璽官

- 收稅事務宰相 內國事務宰相
- 外國事務宰相 屬州事務宰相
- 印度事務宰相 陸軍事務宰相
- 海軍事務宰相 通商事務宰相
- 愛爾蘭事務宰相 教學事務宰相
- 地方事務宰相 驛遞事務宰相等はナリ

○普魯西

第九十八條 法官ヲ除クノ外諸官吏ヨリ政府代言人ニ至ル迄ノ
於テ代人ハ政 府官吏ノ一タリ特權ハ法章之ヲ定ム其法章ハ官吏政府ノ撰任ニ屬
西ニ

スルヲ制限セスト云上官ハ國王之ヲ任シ下官ハ上官之ヲ任ス專横ノ處置ニ逆テ之
ヲ保護ス普魯西ノ法官安ニ所屬官吏ヲ罷免スルヲ得ス必ス紀
人其中四人ハ大法院ノ法官之ニ充ツ凡官吏不律ノ事アレハ其本屬
長官ヨリ紀律裁判ニ訴ヘ裁決ヲ得テ始テ罷免スルヲ得又所屬官
吏長官ヨリ出タル不當ノ指揮ヲ奉行セサルヲ
得ルヲ法ノ保スル所タリ此レ完國無キ所ナリ

○澳地利

第三篇第五條 通國事務ノ管理ハ其責任ヲ負フタル「通國事務執政官」
ニ委任スベシ但該執政官ハ帝國ノ各部ニ特殊ナル事務ヲ兼掌スル
ノ權ヲ有セス○全國軍ノ指揮及編制ヲ規定スルノ權ハ特ニ皇帝ニ
屬ス

第四篇第九條 執政ハ各其職掌トスル政治ニ於テ法律及憲法ヲ枉ケ

サルノ責ニ任ス○執政ノ責任劾告セラレタル執政ヲ處斷スルニ任
スル法院及踐守スヘキ訴訟手續ハ別法之ヲ定ム

第十一條 太政官ハ其權限ヲ守リテ命令ヲ公布シ訓條ヲ下スノ權ヲ
有ス及法ニ循ヒタル條例ト同ク右命令訓條ヲ強テ遵守セシムル權
ヲ有ス○法律ヲ執行スルタメニ行政官ニ附スル權及世治平寧ヲ保
スルタメニ常備シ若クハ臨時徵募スル軍兵ノ使役ハ別法之ヲ定ム

第十二條 凡テ政府ノ官吏ハ其職務ヲ執行スルニ於テ建國法ヲ遵奉
シ及國法州法ヲ以テ規定スル事務ヲ管理スルニ於テ該法律ヲ踐守
スルノ責任アリ○右責任ヲ實踐セシムルハ該官吏ヲ統理シ及之カ
規律ヲ執ル所ノ行政長官ニ屬ス○律法ニ背キタル命令ヲ發シテ權
理ヲ侵犯スル責任官吏ヲ何如シテ處斷スヘキヤハ法律ヲ以テ之ヲ

定ムヘシ

第十三條 凡テ太政官吏ハ憲法ヲ固守シテ侵サ、ルノ誓ヲ述フヘシ

○米利堅

第一條第十三節第十七 某州ヨリ讓リ且議院ノ許ニ依テ國ノ政府ト爲ルヘキ地方十方里ニ過ヲ管轄シ專ラ議政ノ權ヲ行ヒ又各州議政官ノ協議ヲ以テ堡臺火藥局武庫修船所等其佗緊要ノ築造ヲ設ケン爲メ買フ所ノ地ハ都テ同様ノ權ヲ行フヘキ事

全第十八 上ニ記載スル權力及此憲法ニ依テ合衆國政府或ハ其局省若クハ官吏ニ附スル一切ノ權力ヲ行フニ至當必要ノ法ヲ立ル事

○白耳義

第八十六條 生レテ白耳義人タル者若クハ大歸化ヲ得タル者ニ非レハ執政タルコトヲ得ス

第八十七條 王族ハ執政タルコトヲ得ス

第八十八條 諸執政ハ其議員タル時ニ非レハ兩院ニ於テ公評ノ權ヲ有セス議員ヲ兼ルノ執政ハ公評ノ權ヲ有ス○諸執政ハ各院ニ參入ノ權ヲ有ス諸執政ヨリ要求スル時ハ議院必ス其陳議ヲ聽グベシ○兩院ハ諸執政ノ出頭ヲ求ムルコトヲ得

第八十九條 何等ノ時ニ於テモ國王言辭若クハ文書ノ命令ヲ以テ諸執政ノ責ヲ解クコトヲ得ス議院ノ論告ニ任ス

第三百三十七條 千八百十五年八月二十四日ノ基法ヲ廢シ并ニ州法邑

法ヲ廢ス○然ル州官邑官ハ法章別ニ定ル所アルニ至ル迄其權任舊ニ依ル

○瑞典

第五疑 内閣大臣ハ其數十員ヨリ成リ國中ノ萬機ヲ商議スヘシ父子兄弟同時ニ此職ニ在ルヲ許サス

第六款 内閣大臣十員ノ内七員ハ各一課ヲ分掌シテ各省ノ長官タルヘシ即チ司法省ヲ掌ル者ヲ司法國相ト云ヒ外務省ヲ掌ル者ヲ外務國相トス軍務省ノ事ヲ申報スル者ヲ國相ノ長ト云フ此大臣ハ兵馬ノ事ニ就キテハ國王ノ參謀ヲ兼ヌ又一員ハ海務省ノ長官ニシテ海軍ノ事ニ就キテ國王ノ參謀ヲ兼ヌ其他ハ内務省會計省數學省ノ長

官各一員タリ○諸省事務ノ分課ハ國王特ニ規則ヲ出シテ之ヲ定ヘシ○省卿ニ兼任セサル三員ノ大臣内二員ハ必ス從來官途ニ在テ政務ニ經練セシ者ヲ要ス

第七款 政府ノ萬機ハ第十一款第十五款ニ掲ルヲ除クノ外一切之ヲ内閣ニ於テ國王ニ奏聞シテ決定ス可シ

第九款 内閣ニ於テ國王ニ奏スル所ノ萬機ハ總テ其草案ヲ作り當時在職ノ大臣必ス其意見ヲ述ヘ之ヲ草案ニ加ヘ而シテ其商議ニ預ルヘキヲ以テ第百六款第百七款ニ掲ルカ如ク其責ニ任スルヲ要ス然レ之ヲ決定スルハ獨リ國王ニ限ル可シ然ト雖レ萬一國王ノ決定スル處王國ノ憲法ニ戻リ或ハ當時所行ノ律令ニ違フ事判然タルニ於テハ内閣大臣切ニ之ヲ諫争シテ其事ノ施行サレサルヲ要ス○内閣大

臣機務ノ草案ニ反對シタル意見ヲ書セサル者ハ乃チ國王ト商議シテ俱ニ之ヲ決定シタル者ト看做シテ其責ニ任ス可シ

第十款 内閣ニ於テ機務ヲ國王ニ奏聞スルキハ預シメ其奏者之カ草案ヲ作り適當ノ官員ニ出シ其贊助ヲ請フヘシ

第二十九款 大教正教正ノ撰擧ハ從來ノ規例ニ照シテ執行スヘシ即チ候補ノ者三名ヲ申題シ國王其中ノ一名ヲ撰任ス可シ

第三十款 國王ハ從來ノ規例ニ隨テ王室ノ教師ヲ命ス可シ右教師ヲ推薦スルハ其教會ノ權ニ在ル可シ

第三十二款 外國政府ニ派遣スル處ノ諸公使并其屬員ヲ宣命スル時ニハ國王必ス國務宰相外務宰相及國王ノ特命ヲ以テ召出シタル内閣大臣ノ面前ニ於テ執行スヘシ

第三十三款 凡テ官職ニ缺ヲ生スルキハ國王其候補者ヲ撰ミテ之ヲ補セントスルニ方テハ内閣大臣ニ於テ右人物ノ賢否ヲ論シ國王ヲ諫メテ之ヲ阻止スルノ權アリ

第三十四款 國務ノ諸宰相ハ國中人臣ノ極位ト爲リ而シテ内閣大臣之ニ亞ク此宰相大臣ハ在職中他ノ職掌ヲ勤メ他ノ俸ヲ食ム可ラス司法大臣モ亦然リ

第四十七款 第一等ノ小法院及其他ノ法院ハ須ラク法律并ニ法律ト同シキ効用アル諸規則ニ從テ諸案件ヲ裁判ス可シ○國中行政ノ諸官局地方ノ政廳其他大小ノ行政官吏ハ須ラク其職分ヲ盡シテ協同シテ管内ノ事務ヲ辦理シ苟モ王事ニ屬スルモノハ勤テ怠タル可ラス都テ法律ノ成規ニ於テ官吏ノ怠慢ニ出テ或ハ非法ノ所業ヨリ起

ル處ノモノハ國王ノ責任ニ皈スヘシ

○西班牙

第六十三條 國王其權ヲ執行スル爲メ命令スル所ノ諸文書ニハ當該ノ執政副署ス可シ何レノ官吏モ須要ナル副署ヲ缺キタル命令書ヲ決行ス可カラス

○瑞士

第五十九條 聯邦政官ハ國內一般ノ危難トナル可キ傳染病流行スル時ニ方テ健康警察ノ處分ヲ定ルヲ得

第八十三條 聯邦ニ於テ行政ノ最上權ハ七員ヲ以テ構成スル所ノ聯

邦行政會之ヲ執行ス

第八十四條 聯邦行政會員ハ國議會ニ選舉セラル可キ全瑞士國民中ヨリ兩議會之ヲ選ヒテ三歲間其職ニ任ス然レ一列邦中ヨリ行政會ノ僚員一名以上ヲ選舉スルヲ得可カラス○聯邦行政會ハ國議會更選毎ニ全ク之ヲ更迭ス○三歲ニ滿タスシテ聯邦行政會員缺クル時ハ聯邦議會ノ第一次會期即行政會員缺クル者アルニ於テ之ヲ填補シ以テ其任期滿ルノ日ニ至ル

第八十五條 聯邦行政會員ハ其任期間聯邦ニ於テスルモ若クハ列邦ニ於テスルモ決シテ他ノ官職ニ任スルヲ得ス亦他ノ職務ヲナシ或ハ業ヲ營ムヲ得ス

第八十六條 聯邦議長ヲ以テ聯邦行政會ノ首長ニ任シ仍ホ別ニ副議

長一員ヲ置ク○聯邦議長及聯邦行政會ノ副議長ハ聯邦議會該行政會員中ヨリ之ヲ選舉シ一歲間其職ニ任ス○聯邦議長ハ其職ヲ去リタル翌年ニ當リ再ヒ議長若クハ副議長ノ選ニ中ルヲ得ス○同一人ニシテ二歲ノ間引續キ副議長ノ職ニ任スルヲ得ス

第八十七條 聯邦議長及其他ノ聯邦行政會員ハ聯邦ノ金庫ヨリ歲俸ヲ受ク

第八十八條 聯邦行政會ハ少クモ其四員以上出席スルニ非サレハ議決スルヲ得ス

第八十九條 聯邦行政會員ハ聯邦議會ノ兩局ニ於テ商議ノ權及討議ス可キ事件ニ關シ起議ノ權ヲ有ス

第九十條 此憲法ニ限定スル所ノ聯邦行政會ノ職掌及義務ハ大約左

ノ如シ

第一 聯邦行政會ハ聯邦ノ法律命令及決定ニ準シテ聯邦ノ政務ヲ指揮ス

第二 聯邦行政會ハ聯邦ノ憲法法律命令并ニ決定及聯邦會約書ノ規則ノ執行ヲ看守シ且此等ノ法令ヲ遵守セシムル爲ニ須要トスル方法或ハ其長官ヨリ之ヲ設ケ或ハ告訴ヲ聽テ之ヲ設ク

第三 聯邦行政會ハ列邦憲法ノ保固ヲ看守ス

第四 聯邦行政會ハ法律命令若クハ決定ノ議案ヲ聯邦議會ニ出シ及兩議會若クハ列邦ヨリ之ヲ廻送スル起議ニ對シテ其意見ヲ述フ

第五 聯邦行政會ハ聯邦ノ法律命令并ニ決定聯邦裁判所ノ審判及

列邦相互ノ下ラシクシオレ爭論若クハ其判ンタンスアルビト
ラ私裁判者ノ審斷ヲ決行ス

第六 聯邦行政會ハ憲法ニ由リ聯邦議會若クハ聯邦裁判所又法律
ニ由リ他ノ下等政官ニ委任セサル官吏ヲ命ス○聯邦行政會ハ瑞
士國內外ニ於テ特別ナル委員ヲ命ス

第七 聯邦行政會ハ列邦相互ヒノ條約又其外國ト取結ヒタル條約
ヲ檢査シ其許ス可キ者ハ則チ之ヲ認可ス第七十四條
第五項參看

第八 聯邦行政會ハ外國ニ於テ聯邦ノ利益就中各國關係ノ果シテ
行ハル、ヤ否ヲ看守ス且總テ外國交際事務ヲ擔任ス

第九 聯邦行政會ハ外國ニ對シ瑞士國ノ安寧及其獨立ト中立ヲ保
守スルヲ看守ス

第十 行政會ハ内國ノ安寧及平和ヲ保守スルヲ看守ス

第十一 急迫ノ時機ニ臨ミ聯邦議會ノ未タ召集セサルニ遇フテハ
聯邦行政會ハ必要ナル軍兵ヲ徵募シテ之ヲ部署スルヲ得然レ
徵募シタル兵員二千ニ踰ヘ又其屯駐スルヲ三週日以上ニ及ヘハ
即時ニ聯邦議會ヲ召集ス可シ

第十二 聯邦行政會ハ聯邦ノ兵及聯邦ニ屬スル一切ノ行政諸局ニ
關スル者ニ擔任ス

第十三 聯邦行政會ハ其認可ス可キ列邦ノ法律及列邦令狀ヲ調査
シテ軍務通運稅道路橋梁等聯邦ニ於テ監督ス可キ列邦行政ノ諸
局ヲ監察ス

第十四 聯邦行政會ハ聯邦ノ會計ヲ管理シ歲出納豫算表ヲ起議シ

及歲出納ノ決算表ヲ編成ス

第十五 聯邦行政會ハ凡テ聯邦行政官吏ノ管理ヲ監察ス

第十六 聯邦行政會ハ每通常會期ニ於テ聯邦議會ニ其自ラ管理スル所ヲ開具シ且之ニ聯邦内外ノ景況ヲ揭タル報告書ヲ出シ及國ノ繁榮ヲ増加スルニ有益ナリト思量スル方法ヲ勸告ス○聯邦行政會ハ聯邦議會若クハ其會中ノ一局ノ求アル時特別ノ報告書ヲ作ル

第九十一條 聯邦行政會ノ事務ハ局ヲ分テ該會員ニ分任ス此分任ハ專ラ事務ノ調査處分ヲ便宜ニスルヲ要トス但決定書ハ的確ナル者トシテ聯邦行政會ヨリ之ヲ發ス

第九十二條 聯邦行政會及其各局ハ特別ナル事件ノ爲ニ鑑定人ヲ召

スヲ得

第九十三條 聯邦書記局ハ聯邦議會及聯邦行政會ノ書記局之ニ任ス

其長ヲ聯邦ヲ掌印官ト名ク○掌印官ハ任期三年ニシテ聯邦行政會

シアンズリエードラコンフエラシオン

ト同時ニ於テ聯邦議會之ヲ選舉ス○聯邦書記局ハ聯邦行政會ヨリ特別ノ監察ヲ受ク○聯邦ノ法律ヲ以テ嗣後書記局ノ構制ニ關スル諸件ヲ定ム可シ

第九十八條 聯邦政官ノ設置ニ關スル諸件ハ聯邦ノ法律ヲ以テ之ヲ規定ス

第一百條 聯邦ノ官員ハ其管理セル事ノ責ニ任ス但聯邦ノ法律ヲ以テ明確ニ此官吏ノ責任ニ關スル件々ヲ規定ス可シ

○葡萄牙

第四十六條 行法權ハ執政官ノ一員ニ頼リ法律ヲ定立スルニ當テ之

ニ行法權ヲ指ス 屬スル起議ノ權ヲ行フ但法律ヲ作ルヘキ院代議士院ニ於テ

テ調査ヲ經ルノ後始テ此起議ヲ改メ法律議案ト作スヲ得

第四十七條 執政ハ委員啓告スルノ後起議ヲ論辨主張スルヲ得然

モ其貴族院若クハ代議士院ノ議員タルニ非レハ公許シ又公許ニ參スルヲ得ス

第一百條 諸執政局ヲ設置スヘシ但法律ニ由リ執政各局ニ於テ管治スル事務并ニ局數ヲ定メ及適宜之ヲ分合スヘシ

第一百二條 執政ハ總テ行法權ノ政令ニ副署シ若クハ手署スヘシ執政ノ副署若クハ手署ナキ政令ハ執行スルヲ得ス

第一百三條 執政ハ左件ノ爲ニ其責ニ任ス

第一 叛逆

第二 コルユプシオンシユボルナシヨハコソクユシオンニ 收贓誘惑人ヲ迷惑シ若クテ邪惡ヲ行ハシム

第三 擅權

第四 法律ノ違反

第五 凡國民ノ自由安寧若クハ所有ヲ害スル措置

第六 國入ヲ冗費スル事

第一百四條 前條ニ掲ル犯罪ノ性質罪事ノ輕重ヲ云フ 及其糺治ノ方法ハ特別ノ法律ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第一百五條 執政ハ縱令ヒ言辭若クハ文書ヲ以テスル王命アルモ其責

任ヲ免カル、ヲ得ス

第六六條 外國人ハ既ニ歸化スルモノト雖モ執政ニ任スルヲ得ス

第六三十二條 州ノ施政ハ新法律ニ因リ改正スルノ日ニ至ルマデ現

今ノ制ニ仍ルヘシ

增補律例第十五條 海外所屬ノ州ハ各州ノ便宜ニ循ヒ特別ノ法律ヲ

以テ之ヲ統治スルヲ得ベシ

第一 國會ノ未タ開會セサル時政府ハ當該ノ部官ニ諮詢セシ後緊

急ト酌量スヘキ立法上ノ處分ヲ參議院ニ謀リテ命令スルヲ得

ヘシ

第二 海外所屬ノ州ノ總管府モ亦州議會ノ意見ヲ問ヒシ後國會若

クハ太政府ノ決裁ヲ待ツヲ能ハサルヘキ總テノ緊急件ニ備フル

カ爲ニ須要ナル處分ヲナスヲ得ヘシ

第三 右兩件ノ場合ニ當リ政府ハ國會ノ開會スルニ及ンテ速カニ

其處分セシ所ノモノヲ之ニ開具スヘシ

○荷蘭

第九十條 國王ハ國庫ヨリシ又其他ノ方法ニ因リ費用ヲ支ユル水

流及橋堤ノ諸務ヲ綜理ス

第九十一條 法律ハ水流及橋堤ニ係ル一級及特別ノ管理ヲ定ム

第九十四條 教育ハ政府ニ於テ常ニ監護スル所トス○教育ノ構制

ハ法律之ヲ定メ法教ノ主意ヲ侵毀セス政府ハ闔國ニ於テ小學教授

ノ方法ヲ備頓ス○教育ハ政府ノ監察ヲ除クノ外自由トス及中學ト

小學ニ係テハ法律ニ定タル條則ニ準シ教師ノ才能品行ヲ檢證スルヲ除クノ外亦自由トス○國王ハ每歲大中小學校ノ景況ヲ詳精ニスル報告書ヲ國會ニ通照セシム

第九十五條 施濟務ノ管理ハ常ニ政府ノ監護スル所トス但法律ニ因テ之ヲ規定ス○國王ハ每歲施濟ノ景況ヲ詳細ニスル報告書ヲ國會ニ通照ス

○丁抹

第十五條 參議官ハ宰相ノ集會ヲ以テ成ル太子ハ丁年ニ至レハ參議官ニ列スルノ權ヲ有シ國王ハ第七條及第八條ニ掲載スル時機ノ外參議官ノ上席ヲナスノ權ヲ有ス

第十六條 法律及政府ノ要務ハ參議官ニ於テ議決ノ權ヲ有ス國王參議官ノ上席ヲナスコト能ハサルノ狀アル時ハ宰相ノ評議會ニ委任シテ商議セシムルコト得此評議會ハ宰相ヲ以テ編成シ而シテ國王ノ委任ヲ受タル宰相ハ評議會ノ上席ヲナス○各宰相ハ其投言ヲ筆記シ過半数ニ依テ可否ノ決定ヲナス○上席人ハ宰相ノ花押ヲ手署シタル筆記ヲ國王ニ奏進ス國王ハ直ニ之ヲ可トスルカ或ハ參議官ニ於テ更ニ議決ス可キカラ定ム可シ

○伊太利

第六十七條 諸執政ハ職務ニ付テノ責ニ任ス法律及一切ノ文書ハ執政一人ノ花押アラサレハ其力ヲ有セス

○露西亞

露國ニ於テ華族二類アリ即チ門閥華族生レナガラニシテ華族タル者及賞功華族
ヲ謂フナリ又トハ大帝ハ門閥華族ヲ賞功華族ノ下ニ置キタリ且
文武官ヲ十四等ニ分チタリ乃チ左ノ如シ

第一等 國家大宰相陸軍元帥海軍元帥及第一等樞密議官

第二等 陸軍大將海軍大將及第二等樞密議官

第三等 陸軍中將海軍中將及樞密議官

第四等 陸軍少將海軍少將及第一等參議官

第五等 參議官

次ノ四等乃チ第六等ヨリ第九等マテニ於テ海陸軍大佐中佐少佐參

謀大尉及文官數人列ス○終ノ五等乃チ第十等ヨリ第十四等マテニ
於テ尉官及文官數人列ス○初ノ五等ノ者ハ世襲華族トシ其次ノ四
等ノ者ハ終身華族トス何レノ華族ト雖モ必ス政府ニ奉職セサルヲ
得ス若シ三代續テ奉職セサル時ハ皇帝ハ華族ノ爵ヲ取上ルヲ得可
シ露國ニ於テ用フル所ノ華族ノ名稱ハヲラン区コントハロンノ三
トス○千八百六十七年統計表ニ據レハ世襲華族ノ數五十九萬一千
二百六十六人終身華族ノ數三十二萬七千六十四人ナリ華族ハ華族
ヲ以テ編制シタル裁判所ニノミ之ヲ訴フルヲ得且皇帝及元老院ヨ
リ確定シタル裁判言渡アルニ非レハ死刑或ハ除族ノ刑ヲ受可カラ
ス

第二章政治 皇帝ハ行法權ノ總長ナリ其下ニ在テ最モ權勢アル者ハ

帝國政院ナリ此院ノ職務タルヤ先ツ立法ノ布告ノ決議及其立按又
 裁判所ニ於テ法律ノ意味ニ付キ疑アル時其判斷又全國歲出入豫算
 表ノ作立又經濟ニ管スル諸改正又各省ノ卿ヨリ年々出ス所ノ計算
 表ノ檢査又施政ノ事ニ付テ各官局ノ間ニ起ル所ノ難事ノ裁判又其
 外政治ニ付テ皇帝ヨリ意見ヲ諮ハル、時其答議是ナリ○此院ノ議
 官ハ定員ナシ皇帝ハ隨意ニ之ヲ任免シ且國內ニテ最モ名望アル者
 ヲ撰ヒ之ニ議長ノ職ヲ任ス議長ノ側ニ補佐人一名アリ此補佐人ハ
 帝國總書記官ノ各ヲ用ヒ皇帝ト政院トノ間通接往復ヲ司リ且政院
 ノ評議ノ爲メ議案ノ作立ヲ爲シ此院ノ決議書ヲ送達スルヲ掌ル
 ナリ○其次ノ大官ハ乃チ元老院トス裁判ノ權及國是ニ參スルノ權
 ヲ併有スル者ニシテ總テノ民事及刑事ノ裁判ノ爲メ控訴院トナリ

又施政ノ訴訟モ裁判スルナリ其職務ハ先ツ法律ノ執行ニ注意スル
 一租稅ノ收納及國費ヲ檢査スル一帝國ノ舊記ヲ保存スル一國內ノ
 安寧ニ要スル處分ヲ命スル一皇帝ノ布告ヲ頒行スル一等ナリ此院
 ハ諸卿及總テノ官員ヲシテ其年中行シ事務ヲ報告セシムルノ權ア
 リ又多數ノ官員ヲ任ス○元老院ハ十局ニ分チ乃チ聖彼得堡ニ於テ
 五局摩西哥ニ於テ三局哇省ニ於テ二局アリ其各局ノ側ニ大檢事一
 名アリ元老院ノ何レノ裁判言渡ト雖モ其大檢事ノ花押アルニ非レ
 ハ行フ可カラス

元老院ノ議官ハ皇帝之ヲ任ス

諸省ハ千八百二年已降ニ設立セシ者ニシテ左ノ如ク十二省アリ

宮内省

但勳社賞牌皇俸禮式皇帝ノ費用ヲ以テ
 設立シタル劇場及其他ノ館舎ヲ支配ス

陸軍省

外務省

海軍省

內務省

文部省

驛遞電信省

大藏省 但鑛山製鹽諸製鑛所工作所及國內交易ノ事務ヲ兼掌ス

國有財産省 但耕作ノ檢査農業學校ノ支配田野學校及森林ノ支配ヲ司ル

司法省 但量地官員量地學校及法律學校之ニ屬ス

道路官舎省

監察省 但文武官ノ計算書ヲ監察ス

此外調馬事務ニ付キ別段ノ局アリ○皇側ノ事務ヲ司ル書記局アリ其職掌ハ法律ノ布告政治上ノ警察國民ノ願書及皇后ノ配下ニ在ル總テノ教育學校其他ノ教育所ヲ調理スルナリ

地方政治 波蘭ハイ、ランドノ兩國ハ各別ニ政府アリ乃チ波蘭ニ於テ皇帝ノ「リウトナ」政治議院ノ補佐ヲ得テ之ヲ管理ス但此議院ハ終身議員十五人定期議員七人アリテ皇帝之ヲ任ス「ハイ、ランド」ニ於テ總督官一名之ヲ管理ス其側ニ元老院アリ皇帝之ヲ任ス此國ニ於テ立法權ハ一ノ議院ニ歸ス此議院ハ華族ノ名代ヲロテスタ「ン」教ノ僧徒府民農民ヲ以テ編制ス皇帝ハ華族ノ長ヲ以テ其議長ト爲ス然レ此院ノ決定ハ皇帝ノ許諾アルニ非レハ執行ス可カラズ其他全露國ノ領分ニ五十八州三府二藩十一ヲプラス「ル」未タ建置セサ及三「シ」ス

トリク^トキ^キリギ^スニ在リ^ス 在リ^ス○コーカ^スト^ス國ノ六州ハ皇帝ノ刃ウ^ト下^ナレ^ル一名總轄^ス又全露國ニ總督官十名アリ各總督官ハ其配下ノ州ノ文武官長ヲ指揮ス各總督官ノ側ニ議官三名及議官補數人ヲ以テ編制シタル議院アリト雖^レ正總督官ハ必シモ其意見ヲ問フニ及ハス此議院ニ於テ檢事一名副檢事二名法律ノ執行ニ注意シ帝室ノ利益ヲ保護ス○聖彼得堡都及其近傍ハ格別ノ府トス

第十二 司法權

○佛蘭西^一千七百^九十一年

第十八條 裁判權ハ國民ヨリ期限ヲ定メ撰任シタル裁判役ニ委託ス
第五十八條 民選議院及國王ハ孰レノ場合ニテモ裁判權ヲ行フヘカラス

第五十九條 裁判ノ^コハ國民ヨリ任期ヲ定メ撰任シ且國王ノ證書ヲ以テ委任シタル裁判役之ヲ爲ヘシ但國王ハ必ス之ニ任職書ヲ與ヘサルヲ得ス○國王ハ裁判役在勤中ニ爲シタル罪ニ付法律ニ循テ裁判ヲ言渡シタルニ非レハ其職ヲ奪フヘカラス又的實ナル訴訟ノ爲ニ非レハ其職ヲ一時免スル^コ能ハス○公ノ原告官ハ國民ヨリ委任スヘシ

第六十條 裁判役ハ立法權ノ施行ニ關スルコト或ハ法律ノ施行ヲ差止ルコト又施政ノ職務ニ關スルコト或ハ行法官ヲ其事務ニ付テ訴訟セシムルコトヲ爲ヘカラス

第六十一條 法律ニ於テ國民ノ爲メ定タル裁判役ヲ閣キ之ヲ孰レノ總代或ハ他局ニ其事務ヲ遷移スヘカラス又法律ニ定タル場合ノ外裁判スヘキ裁判所ニ於テ其訴事ヲ受理セスシテ他ノ裁判所ニ之ヲ遷移スヘカラス

第六十三條 裁判所ハ原被告人治安裁判役ノ前ニ出テ或ハ原告人爭訟ヲ和解スル爲メ治安裁判役ノ前ニ被告人ヲ召シタルコトヲ證スルニ非レハ孰レノ訴訟モ受理スヘカラス

第六十四條 各區及各都府ニ於テハ治安裁判役一人或ハ數人ヲ置

ヘシ其員ハ立法官之ヲ定ヘシ

第六十五條 裁判所ノ數ト其管轄地及各裁判所ヲ編制スヘキ裁判役ノ數ヲ定ルコトハ立法官ノ職務ニ歸スヘシ

第六十六條 裁判役ハ重罪上ニ就テハ陪審役ヨリ受シ訴訟ニ因サレハ裁判ヲ言渡スヘカラス尤民選議院訴訟ヲ原告スヘキ場合ニ於テハ民選議院ノ布告ニ因テ裁判スルヲ得ヘシ○陪審役ハ罪狀ヲ證明シ其罪アルヲ陳述スヘシ○被告重罪人ハ陪審役ノ中數人ニ對シ疑惑ノ事故アレハ其旨ヲ陳述セスト雖其其人ヲ拒ムコトヲ得ヘシ但拒ムコトヲ得ヘキノ人數ハ二十人ヲ過クヘカラス○罪狀ヲ證明スル陪審役ハ十二人以上ナルヘシ罪狀ニ法律ヲ準擬スルコトハ裁判役之ヲ爲スヘシ訊問ハ公然ニ之ヲ爲ヘシ且被告重罪人辨護人ヲ願フニ

於テハ承諾セサルヲ得ス法律ニ循テ編制シタル陪審役ヨリ免罪シタル人ハ其免罪ノ爲メ再捕及訴訟ヲ受ヘカラス

第六十八條 人ヲ捕ヘ取締官ノ面前ニ拘引スルハ之ヲ即時或ハ遅クモ二十四時間ニ訊問スヘシ○訊問セシ後其人無罪ニ歸スルハ直ニ解放スヘシ如シ之ヲ假獄舍拘留場ノ類ニ非スヘ送ルノ故アレハ成可クタケ速ニ送ルヘシ其時間ハ孰レノ場合ニテモ三日ヲ過クヘカラス

第六十九條 取押ヘラレタル人法律ニ從テ保證人ヲ差出シ解放セラル、ヲ得ヘキ場合ニ於テ適當ノ保證人ヲ差出スルハ之ヲ解放セサルヲ得ス

第七十條 法律ニ循テ禁錮セラルヘキ人ハ假獄舍或ハ獄舍ノ用ニ

ニ供スルタメ法律ニテ公然ト差定タル場所ニノミ之ヲ拘引シテ禁錮スヘシ

第七十一條 孰レノ監獄吏或ハ門番ニテモ第六十七條ニ記シタル取締官ノ捕票裁判所ノ捕令民選議院ヨリ爲シタル訴ヘノ布告或ハ裁判言渡書等ヲ受ケ且右書面ヲ己ノ簿冊ニ記入スルニ非レハ其人ヲ請取り或ハ拘留スヘカラス

第七十二條 凡監獄吏或ハ門番ハ其獄舍取締官吏ノ命アル毎ニ囚人ヲ之ニ視スヘシ但監獄吏守門人ハ他ノ官員ヨリ受タル命令ニ於テ囚人ヲ視スヘカラサルトノ由縁ヲ以テスト雖モ此條ノ規則ニ背クヘカラス○囚人ノ親屬朋友右取締官吏ノ命令書ヲ持參スルニ於テハ監獄吏門番ハ囚人ヲ視スヲ肯セサルヲ得ス且囚人ニ對面ヲ

禁スヘキ裁判役ノ命令書アリテ且之ヲ獄舎ノ簿冊ニ記載シタル場合ノ外ハ取締官吏ハ囚人ニ面會セント願フ親屬朋友ニ之ヲ許サヤルヲ得ス

第七十六條 全國ノ爲メ覆審裁判所一箇所ヲ置キ之ヲ民選議院ノ

側ニ設立スヘシ其職務ハ左ノ件ヤニ就テ裁判ヲ言渡ス

第一 裁判所ヨリ言渡セシ終審ノ裁判ニ對シ取消ヘキノ願

第二 一箇ノ裁判所ヨリ言渡セシ裁判ニ付其裁判役ヲ疑フ事由ヲ

以テ之ヲ他ノ裁判所ニテ裁判セシメントスルノ願

第三 數箇ノ裁判所ニ關涉スルコトニ於テハ之ヲ裁判スヘキ裁判所

ヲ定ルコト及裁判所ノ言渡セシ裁判ヨリ生セシ損害ヲ補償セシム

ルノ願

第七十七條 裁判取消ノコトニ就テ覆審裁判所ハ訴事ノ殆末ヲ吟味

スヘカラス唯法式ニ背ク手續或ハ法律ニ背反シタル裁判ヲ取消ス

後其訴事ノ始末ニ關スヘキ裁判所ヘ送り之ヲ裁判セシムヘシ

第七十八條 一訴事ノ裁判ニ於テ既ニ兩度取消サレシト雖モ三度

目ノ裁判所ヨリ言渡セシ裁判ヲモ同主旨ヲ以テ取消サンコトヲ訴出

ルモ覆審裁判所ハ民選議院ノ承決ヲ受サレハ右取消ノ訴願ヲ裁判

スヘカラス但民選議院ハ右訴事ニ就テ覆審裁判所ハ必ス循フヘキ

格段ナル法律ノ布令ヲ出シ以テ之ヲ定ヘシ

第七十九條 覆審裁判所ハ毎年民選議院ノ集會所ヘ八人ノ總代ヲ

出スヘシ其總代ハ年中覆審裁判所ヨリ言渡セシ都テノ裁判目錄ヲ

民選議院ヘ進達スヘシ但其目錄書ニ各訴事ノ始末ヲ略記シ且其裁

判ノ基キタル法律ノ箇條ノ原文モ之ニ附記スヘシ

第百八十條 覆審裁判所ノ裁判役ト最上陪審役ノ内撰擧シタル者ト
ヲ以テ編制シタル最上裁判所一箇所ハ民選議院ノ布告ヲ以テ訴ヘ
ラル、諸卿及行政官ノ重役ノ犯罪并ニ國家ノ安寧ニ對スル罪ヲ裁
判スヘシ○最上裁判所ノ裁判役ハ民選議院ノ布令ナク且民選議院
集會所ヨリ三萬下ワ一區程以上離隔シタル所ニアラサレハ集會ス
ヘカラス

第百八十一條 裁判所ヨリ言渡セシ裁判ノ執行証書ハ左ノ文式ヲ用
ユヘシ

我國王ノ名 天主ノ恩惠及國ノ憲法ニヨリ佛蘭西國民ノ王タリ現今
及將來ノ國民ニ頓首ス今般何所ノ裁判所左ノ裁判ヲ言渡セシト此

裁判ノ文ヲ記シ且裁
判役ノ名ヲ記スヘシ 裁判所ノ使吏ヲシテ之ヲ執行セシムルコト此
証書ヲ以テ命シ我ノ裁判所ニ勤ムル檢事ヲシテ其執行ヲ検査スル
コトヲ命シ又兵隊ノ指令官及士官ヲシテ法律ニ循テ請求セラル、毎
ニ之ヲ助ルヲ命ス其證據トシテ裁判所ノ長官及書記役ハ此裁判ノ
証書ニ花押セリ

第百八十二條 檢事ノ職務ハ裁判所ヨリ言渡スヘキ裁判ニ就テ裁判
役ヲシテ法律ニ循カハシメ且言渡セシ裁判ヲ執行セシム○檢事ハ
原告官トナラスト雖モ總ノ訴事ニ就テ其意思ヲ陳述スルヲ得ヘシ
且訊問中法式ニ循フコトヲ裁判役ヘ請求シ及裁判言渡ノ前其罪ニ準
擬スル法律ヲ執行スルコトヲ裁判役ニ請求スルヲ得ヘシ
第百八十三條 檢事ハ己ノ職務ニ由リ或ハ國王ヨリ受ル命令ニ因テ

左ノ罪ヲ陪審長ヘ訴フヘシ

第一 國民自由ノ權ニ對シテ妨害ヲナスコト食物及他ノ交易物品ノ

自由ナル運漕ニ對シテ妨害ヲナスコト諸税ノ收納ニ對シテ妨害ヲ

ナス事

第二 己ノ職務ニ付發シタル命令ノ執行ヲ妨害スルノ輕罪

第三 下ロワーテシヤン萬國公法ニ對シテ妨害ヲナス事

第四 裁判ノ執行及行法諸官ノ處置ニ對シテ抗拒スル事

第百八十四條 司法卿ハ裁判役ノ中權外ノ所業ヲ爲シタル者アレハ

檢事ヲシテ覆審裁判所ニ之ヲ訴ヘシムヘシ覆審裁判所ハ其裁判ヲ

取消ヘシ且其裁判役其所業ヲ爲セシニ付職務上ノ罪アルキハ之ヲ

民選議院ニ報告スヘシ民選議院ハ其事ヲ吟味シ罪アルニ於テハ訴

フヘキノ布令ヲ發シ罪人ヲ最上裁判所ニ送ルヘシ

○佛蘭西一千七百九十三年

第八十五條 民法刑法ノ集書ハ全國中ニ同様ニ執行スヘシ

第八十六條 國民自ラ撰擧セシ中立人ヲシテ己ノ相互ノ爭論ヲ決斷

セシムルノ權アルニ因テ孰レノ人モ其權ニ傷害ヲ加フヘカラス

第八十七條 右中立人ノ決斷ハ一定不易ノ者トス尤國民其決斷ニ對

シテ抗訴スルノ權前以テ定シキハ格別ナリ

第八十八條 法律ニ定ル區部國民ヨリ撰擧シタル治安裁判役有ヘシ

第八十九條 居間裁判役ハ無費ニテ爭論ヲ和解シ裁判ヲ爲ヘシ

第九十條 治安裁判役ノ數及其管轄及權限ハ民選議院之ヲ定ヘシ

第九十一條 撰立會議ヨリ撰任シタル公ノ中立人之アルヘシ

第九十二條 公然中立人ノ數及其管轄所ハ民選議院之ヲ定ヘシ

第九十三條 訴事ハ人民自ラ撰立シタル中立人或ハ居間裁判役之ニ管係セシト雖正將明サルルハ公ノ中立人ハ其訴事ヲ裁判スヘシ

第九十四條 公ノ中立人ノ評議ハ公然ニナシ其存意ヲ高聲ニ述ヘシ且無費ニテ定例ノ手數ナク兩造ノ拒言且兩造ヨリ差出セシ調書ニ基キ終審裁判ヲ成ヘシ公ノ中立人ハ己ノ決定ノ子細ヲ書述スヘシ

第九十五條 居間裁判役及公ノ中立人ハ毎年撰任スヘシ

第九十六條 重罪ノコニ就テハ孰レノ國民ニモ陪審ヨリ受タル訴ヘ或ハ民選議院ヨリ布令シタル訴ヘニ基カサレハ之ヲ裁判スヘカラス○被告人ハ己ノ撰舉セシ助言人或ハ裁判所ヨリ言付ラル、助言

人之アルヘシ○罪業ノ有無及罪人ノ故造或ハ過誤ノコハ陪審之ヲ定ヘシ罪業ニ當テ用ユヘキ罰方ハ重罪裁判所之ヲ定ヘシ

第九十七條 重罪裁判所ノ裁判役ハ年々撰立會議ニ於テ之ヲ撰任スヘシ

第九十八條 共和國ノ全領ノ爲メ覆審裁判所一ヶ所之アルヘシ

第九十九條 此裁判所ハ訴事ノ始末ニ管スヘカラス唯裁判法式及法律ニ違犯セシコノミヲ裁判スヘシ

第百條 覆審裁判所ノ裁判役ハ撰立會議ニ於テ年々之ヲ撰任スヘシ

○佛蘭西 一千七百九十五年

第二百二條 民選議院及行政官孰レモ裁判權ヲ行フヘカラス

第二百三條 裁判役ハ立法權ノ執行ニ管スヘカラス又孰レノ規則モ

設クヘカラス裁判役ハ施政官ノ職務ノ所業ニ就テ施政官ヲ召シ又
訴フヘカラス

第二百四條 孰レノ人モ法律ニ於テ自己及己ノ訴事或ハ罪業ニ適ス
ル裁判所ヲ除キ孰レノ裁判委員ノ前ニモ之ヲ訴ヘ或ハ其訴事起ラ
ザル前ニ設タル法律ニ定タル場合ノ外其訴事ノ裁判ヲ他局ニ遷移
セシムヘカラス

第二百五條 受理ハ無費ニテ之ヲ爲ヘシ

第二百六條 裁判役ハ在勤中成シタル罪且法律ハ從ハスシテ裁判シ
タル罪ヲ犯セシ場合ノ外之ヲ褫職スル能ハス又的實ナル訴訟ノタ
メナラサレハ之ヲ停職スヘカラス

第二百七條 宗系ノ親屬及卑屬兄弟伯叔父及姪從弟并ニ右ト同級ノ

如屬ハ同時ニ同裁判所ノ官吏トナル能ハス

第二百八條 裁判所ノ席ハ來聽ヲ許サマルヲ得ス裁判役ハ内密ノ評
議ヲ爲セシ上裁判ノ言渡ヲ高聲ニ述フヘシ其言渡ニ於テ裁判ノ譯
柄及準擬セシ法律ノ辭ヲ述フヘシ

第二百十二條 法律ニ定タル各區部ニ於テ治安裁判役及其副役之ア
ルヘシ右ハ盡ク二年ノ期限間撰任スル者ニシテ其二年終シ上直ニ
之ヲ再任シ及其後何度ヲ限ラス撰任スルヲ得ヘシ

第二百十三條 治安裁判役及副役ヨリ終審裁判トシテ裁判スヘキ事
件ハ法律ニ於テ之ヲ定ヘシ又法律ニ於テハ治安裁判役ヨリ始審裁
判トシテ裁判スヘキ事件ヲ定メ而シテ之ヲ右裁判所ヘ歸セシム

第二百十四條 海陸貿易ノタメ格別ナル裁判所之アルヘシ且之ヲ設

立スヘキ場所ハ法律ニ於テ定ム右裁判所ヨリ終審裁判トシテ裁判
スヘキ權ハ麥百列ンタル^一ケンタル^二二十一^三アブル^四我^一リブル^二ノ價高
ノ訴事ニ限ルヘシ

第二百十五條 始審或ハ終審裁判ヲナスヘキ事件ヲ論セス都テ治安
裁判役及貿易裁判所ニ管セサル訴事ハ之ヲ直ニ治安裁判役及副役
ヘ差出シ和解セシムヘシ若シ治安裁判役之ヲ和解スル能ハサルハ
ハ之ヲ初告裁判所ヘ差送ルヘシ

第二百十六條 各州ニ於テ初告裁判所一個之アルシシ〇各初告裁判
所ハ裁判役少クモ二十人^{シレクトリ}督理官ヨリ任免スヘキ檢事及代役各人ニ
又書記一人ヲ以テ編制スヘシ五年目ニ裁判役ノ撰任ヲ爲ヘシ已ニ
撰任シタル裁判役ハ幾度ヲ限ラス撰任サル、ヲ得ヘシ

第二百十七條 右裁判役撰任ノ節裁判役ノ助役五人ヲ撰任スヘシ右
五人ノ内三人ハ裁判所ヲ設クル所ノ邑ニ住居シタル人民ノ内ヨリ
撰フヘシ

第二百十八條 初告裁判所ハ法律ニ定タル場合ニ於テ治安裁判役ノ
裁判ニ對シテノ控訴中立人ノ裁判或ハ貿易ノ裁判ニ對シテノ控訴
ヲ終審裁判トシ裁判スヘシ

第二百十九條 初告裁判所ヨリ言渡シタル裁判ニ對シテノ控訴ハ法
律ニ定ル所ニ從テ尤近キ三州内一州ノ初告裁判所ヘ差出スヘシ

第二百二十條 初告裁判所ハ數部ニ分ツヘキ者ニシテ各部ノ裁判役
ノ數ハ五人以上ニ非レハ裁判ノ所爲ヲナスヘカラス

第二百二十一條 各裁判所ノ裁判役ハ秘密ノ投票ヲ以テ裁判所ノ各

部ノ長ヲ撰任スヘシ

第二百二十三條 人ノ取捕ヲ命スル証書ハ左ノ法式ヲ用ヒサレハ之ヲ執行スヘカラス

第一 右証書ノ文面ニ其取捕ヘル由縁及之ヲ爲ニ何レノ法律ニ根據スルコトヲ記載セサルヲ得ス

第二 右証書ノ旨ヲ本人ヘ直ニ報知シ且其寫一通ヲ本人ニ留メ置カシム

第二百二十四條 人ヲ取押ヘ取締官ノ面前ニ拘引スルキハ即時或ハ其時ヨリ遅クモ二十四時間ニ之ヲ訊問スヘシ

第二百二十五條 其人ヲ訊問セシ後犯罪ナシト顯ハル、キハ直ニ之ヲ解放セサルヲ得ス如シ犯罪アリテ本人ヲ仮獄舎ヘ送ルヘキキハ

ナルヘキタケ速カニ之ヲ送ルヘシ其時間ハ孰レノ場合ニモ三日ヲ過クヘカラス

第二百二十六條 取捕ヘラレタル人ハ法律ニ從テ保証人ヲ差出シ解放セラル、ヲ得ヘキ場合ニ於テ適當ノ保証人ヲ差出スキハ之ヲ解放セサルヲ得ス

第二百二十七條 孰レノ人モ法律ニ從テ禁錮サル、ヲ得ヘキ場合ニ於テ仮獄舎或ハ獄舎ノ用ニ供スル爲メ法律ニ於テ公然ニ定タル場所ニノミ之ヲ拘引シテ禁錮スヘシ

第二百二十八條 孰レノ監獄吏或ハ守門人モ第二百二十二條及第二百二十三條ニ記シタル法式ニ從テ爲シタル捕票或ハ裁判所ノ捕令或ハ民選議院ノ告訴ノ布告或ハ禁錮懲治ノ裁判言渡書ニ因ラサレ

ハ人ヲ請取リ又拘留スヘカラス

第二百二十九條

凡監獄吏及守門人ハ其獄舎ノ警察ヲ取扱ヒ官員ノ

命アル毎ニ囚人ヲ之ニ視スヘシ但孰レノ官員ノ命令ニ托シテ右規則ヲ犯スヘカラス

第二百三十條

囚人ノ親屬或ハ朋友右警察官員ノ命令書ヲ持參シ囚

人ニ面會センコトヲ願出スルハ監獄吏或ハ守門人之ヲ肯セサルヲ

得ス警察官ハ親屬朋友ニ此命令書ヲ與フルコトヲ肯セサルヲ得ス尤監獄吏或ハ守門人ハ囚人ノ對

面ヲ禁スヘキ裁判所ノ命令書ヲ受ケ已ニ之ヲ獄舎ノ簿冊ニ記入シ

其命令ノ趣ヲ聞カシムルヲ得ヘキハ格別トス

第二百三十二條

人ヲ逮捕ヘ入牢シ或ハ罪ニ處スル爲メ法律ニ於テ

定サル嚴刑ノ處置ハ罪ト見做スヘシ

第二百三十三條

施体或ハ加辱ノ刑ヲ生スヘカラサル罪ヲ裁判スル

タメ各州ニ於テ輕罪裁判所少クモ三箇所多クモ六箇所アルヘシ〇

右裁判所ハ禁獄二年ノ罰ヨリ重罰ヲ言渡ス能ハス三日分ノ備貸ト

均シキ罰金或ハ禁獄三日ヲ過サル罰ヲ生スヘキ罪ノ裁判ハ治安裁

判役ニ歸スヘシ且治安裁判役ハ右ニ付テ終審裁判ヲ爲ヘシ

第二百三十四條

各輕罪裁判所ハ長一人且其裁判所ヲ設ル處ノ邑ノ

ノ治安裁判役或ハ副役二人シレントナリ督理官ヨリ任シ且免スルヲ得ヘキ檢事

役一人及書記役一人ヲ以テ編制セルモノナリ

第二百三十五條

各輕罪裁判所長ハ州ノ初告裁判所ノ諸局裁判役ノ

内ヨリ六箇月目ニ採ルヘキモノニシテ局長ヲ除キ右裁判役ハ皆順

次ニ其役ヲ任セラルヘシ

第二百三十六條

輕罪裁判所ノ裁判ニ對シテ州ノ重罪裁判所ヘ控訴

スル得ヘシ

第二百三十七條 施体ノ罰或ハ加辱ノ罰ヲ生スヘキ罪ニ付テ孰レノ人モ陪審ヨリ其告訴ヲ承諾シ或ハ民選議院ヨリ其告訴ヲナスヘキ場合ニ於テ民選議院ノ爲セシ告訴ノ布告ニ因ラサレハ之ヲ裁判スル能ハス

第二百三十八條 凡陪審二箇ヲ用ヒ一箇ノ陪審ハ其告訴ノ可否ヲ決シ又一箇ノ陪審ハ人ノ罪ヲ証明シ重罪裁判所ハ法律ニ從ヒ罪ノ適當スヘキ刑ヲ定ム

第二百三十九條 陪審ハ祕密ノ投票ヲ以テノミ事ヲ決議ス

第二百四十條 各州ニ於テ告訴陪審ノ數ハ同州ノ輕罪裁判所ノ數ト均シカルヘシ各輕罪裁判所長ハ己ノ郡ノ陪審長ナリ〇五萬人以上

ノ邑ニ於テハ輕罪裁判所長ノ外其用事ヲ取捌ニ必要ナル陪審長其少數或ハ多數ヲ格別ノ法律ヲ以テ設ヘシ

第二百四十一條 告訴陪審ニ於テ檢事及書記役ハ輕罪裁判所ノ檢事及書記役之ヲ勤ヘシ

第二百四十二條 各陪審長ハ己ノ管轄ノ都テノ警察官員ヲ直ニ檢査スヘシ

第二百四十三條 陪審長ハ公然原告官自身或ハ督理官シレクトールノ命令ニ因リ己ノ爲シタル告白ニ基キ左ノ罪ヲ直ニ告訴スヘシ

第一 國民ノ自由或ハ保身ニ對シテノ犯罪

第二 萬民法ニ對シテノ犯罪

第三 裁判ノ執行或ハ孰レノ官員ヨリ國主ノ名義ヲ以テ發シタル

命令ノ執行ニ對シテ爲シタル暴行

第四 徵稅或ハ食糧及貿易物品ノ通運ヲ妨クル爲ノ暴行及騷亂ヲ起ス事

第二百四十四條 各州ニ於テ重罪裁判所一箇アルヘシ

第二百四十五條 重罪裁判所ハ長一人公然原告官一人初告裁判所ノ裁判役ノ内ヨリ任シタル裁判役四人初告裁判所ノ檢事或ハ副役一人及書記役一人ヲ以テ編制スル者ナリ○モイ_區佛_國西_名ノ重罪裁判所ニ於テ右官員ノ外副長一人及公然原告官副役一人アルヘシ此裁判所ハ二課ニ分レ初告裁判所ノ官員八人右裁判所ニ裁判役ヲ勤ル_{トナリ}

第二百四十六條 初告裁判所ノ局長ハ重罪裁判所ニ裁判役ヲ勤ル能

ワス

第二百四十七條 初告裁判所ノ他ノ裁判役ハ其委任月日ノ順序ニ因テ更六月間重罪裁判所ニ勤ムヘキ_トニシテ右時間中初告裁判所ニ孰レノ職ヲ勤ル能ワス

第二百四十八條 公然原告官ハ左ノ用務ヲ掌ルヘシ

第一 初メ陪審ヨリ承諾シタル告訴ノ公書ニ基キ罪ヲ告訴スル事

第二 已レニ直ニ届ケタル告白ヲ警察官員ヘ傳達スル事

第三 州ノ警察官員ヲ檢査シ且右官員怠慢或ハ更ニ重罪アルキハ法律ニ定タル處分ヲ執行スル事

第二百四十九條 檢事ハ左ノ用務ヲ托サル、_{トナリ}

第一 訊問中裁判法式ヲ遵守スヘキ_トヲ請求スル_ト及裁判言渡ノ

其ニ至リ裁判役ヨリ法律ノ何箇條ヲ執行スヘキヲ請求スル事

第二 重罪裁判所ヨリ言渡シタル裁判ヲ行ハシムル事

第二百五十條 裁判役ヨリ陪審ノ裁斷ニ進ムル事件ハ簡一ナルコニ限ルヘキモノニシテ混雜ナル事件ナカルヘシ

第二百五十一條 裁判ノ陪審ハ但罪アルト否ヲ決斷スル陪審ヲ云少クモ十二人ヲ以

テ編制スルモノニシテ被告重罪人ハ右ノ内數人ニ對シ疑惑ノ事故アレハ其事故ヲ陳述セスト雖モ其人ヲ辭謝スルヲ得ヘシ尤右ノ通り辭謝スルヲ得ヘキ最上ノ人數ハ法律ニ於テ定タル人數ニ限ルヘシ

第二百五十二條 陪審ノ面前ニ爲スヘキ訊問ニ於テハ來聽ヲ免スヘシ且被告重罪人ハ辨護人ヲ願ニ於テハ之ヲ承諾セサルヲ得ス本人

其辨護人ヲ自ラ撰舉スルヲ得ヘシ若シ自ラ之ヲ撰舉スル能ハサルハ官ヨリ被告重罪人ノ爲メ辨護人一人ヲ撰任スヘシ

第二百五十三條 法律ニ從テ設立シタル陪審ヨリ已ニ解放シタル被告重罪人ハ其告訴サレタル同所業ニ付テ之ヲ再度取捕ヘ告訴スヘカラス○共和全國ノ爲メ覆審裁判所一箇所アリ右裁判所ハ左ノ件ヤニ付テ裁判ヲ言渡スヘシ

第一 裁判所ヨリ言渡シタル終審裁判ヲ取消サンタメノ訴願

第二 一箇ノ裁判所ヘ送りタル訴事ニ就テ其裁判役ヲ疑フ事由ヲ陳ヘ或ハ國ノ平和ノ目的ヲ陳述スルヲ以テ之ヲ他ノ裁判所ニ於テ裁判セシムルタメノ訴願

第三 一事ガ數箇ノ裁判所ヘ管渉スルニ於テハ之ヲ裁判スヘキ裁

判所ヲ定ルコト及一箇ノ裁判所ノ言渡セシ裁判ヨリ生ゼシ損害ヲ其裁判役ノ全分ニ對シテ補償セシムルノ願

第二百五十五條 覆審裁判所ハ訴事ノ始末ヲ吟味スル能ハスト雖モ法式ニ背ク手續キヲ以テ言渡シタル裁判或ハ法律ニ背反シタル裁判ヲ取消シテ其訴事ノ始末ヲ管スヘキ裁判所ヘ之ヲ送ルヘシ

第二百五十六條 一訴事ニ就テ爲シタル裁判一度取消シ他ノ裁判所ヘ差送リシト雖モ又右裁判所ノ裁判モ同主旨ヲ以テ取消サントスルノ願ヒヲ出サ、ルモハ覆審裁判所ハ事ヲ民選議院ヘ進メサリシ上ナラサレハ其訴事ヲ裁判スヘカラス且右訴事ヲ裁判スルニハ民選議院ヨリ右ニ付キ格別ノ法律ヲ布告セシ後必ス之ニ從フヘシ
第二百五十七條 毎年覆審裁判所ハ民選議院ノ各課ヘ總代ヲ差出シ

年中覆審裁判所ヨリ言渡セシ都テノ裁判ノ目錄ヲ進達スベシ但右目錄ノ端ニ各訴事ノ始末及其裁判ノ基キタル法律ノ箇條ノ原文ヲ書加フヘシ

第二百五十八條 覆審裁判所ノ裁判役ノ數ハ州ノ全數ノ三人ヲ過クヘカラス

第二百五十九條 此裁判所ハ各年其官員ノ半ヲ改撰スルヲ以テ變改ス諸州ノ撰立會議ハ順ヲ逐ヒ交代シテ覆審裁判所ノ退職スル裁判役ノ代役ヲ撰任スヘシ但覆審裁判所ノ裁判役ハ何度ヲ限ラス右役ニ復撰サル、ヲ得ヘシ

第二百六十條 覆審裁判所ノ各裁判役ノタメ同撰立會議ヨリ撰任シタル裁判代役一人ヲ置クヘシ

第二百六十一條 覆審裁判所ノ側ニ督理官ヨリ委任シ且免職スルヲ得ヘキ檢事一人及代役數人之アルヘシ

第二百六十二條 引レクトワールハ裁判役自己ノ權限ヲ過キテ爲セシ處置ヲ檢事ヲシテ覆審裁判所ヘ告白セシムヘシ但右ハ裁判役ノ處置ニ因リテ生セシ損害ヲ補償セシムルヲニ付テ原被告人ノ有スル權ト抵觸スヘカラス

第二百六十三條 覆審裁判所ハ右裁判役ノ處置ヲ取消ヘシ若シ右處置ハ裁判役自己ノ職務ニ付テノ罪ナルキハ覆審裁判所ハ之ヲ民選議院ニ告白ス民選議院ハ訴ヘタル裁判役ヲ召シ或ハ其論辨ヲ聞シ上罪アルニ於テハ訴ヘノ布令ヲ發スヘシ

第二百六十四條 民選議院ハ覆審裁判所ノ裁判ヲ取消ス能ハスト雖

凡其裁判役自己ノ職務上ニ付テ罪アルキハ自ラ之ヲ告訴スルヲ得ヘシ

第二百六十五條 民選議院ノ承諾セシ己ノ議員及引レクトワールノ官員ニ對シテノ訴訟ヲ裁判スルタメ最上裁判所一箇所アルヘシ
第二百六十六條 最上裁判所ハ覆審裁判所ノ内ヨリ出シタル裁判役五人公然原告官二人及州ノ撰立會議ヨリ撰任シタル最上陪審員ヲ以テ編制ス

第二百六十七條 最上裁判所ハ民選議院ノ布告ニ因テノミ集會スヘシ但五百員議院ハ此布告ノ文書ヲ記載シ且布告スヘシ

第二百六十八條 最上裁判所ハ五百員議院ノ布告書ニ記シタル場所ニ集會シ且議席ヲ爲ヘシ右場所ハ民選議院ノ集會所ヨリ十二萬ヲ

トル^一我三尺三寸以上離隔セサルヲ得ス

第二百六十九條 民選議院ニ於テハ最上裁判所集會致スヘキ旨布告セシキハ覆審裁判所公然ノ議席ニ於テ圖取ヲナシ以テ己ノ官員十五人ヲ撰舉セシ後直ニ同議席ニテ其十五人ノ内秘密ナル投票ヲ以テ五人ヲ選任スヘシ右五人ハ最上裁判所ノ裁判役トナル其内一人ヲ撰ヒ之ヲ裁判長ニ委任スヘシ

第二百七十條 覆審裁判所ハ右議席ニテ投票ノ過半ヲ以テ二人ヲ撰舉シ之ヲ最上裁判所ノ公然原告官ノ職ニ委任スヘシ

第二百七十一條 告訴ノ証書ハ五百員議院之ヲ記載スヘシ

第二百七十二條 各年各州ノ撰立會議ハ最上裁判所ノ爲メ最上陪審一人ヲ撰任ス

第二百七十三條 撰舉終リシヨリ一箇月ノ後督理官最上裁判所ノ陪審ニ委任シタル人ノ連名目錄ヲ出版シ布告セシムヘシ

○佛蘭西 一千七百九十九年

第六十條 各邑ノ管轄ニ於テ治安裁判役一人或ハ數人ヲ設置スヘシ國民ハ直ニ之ヲ撰舉シ三年限り任スヘシ右裁判役ノ至重ナル事務ハ原被告人ヲシテ和解セシムルヲニシテ原被告人和解セサルキハ其訴事ヲ中人ノ裁斷ニ任スルヲ其ニ進ムヘシ

第六十一條 民間訴事ニ就テハ初告裁判所及控訴裁判所之アルヘシ
○右裁判所ノ編制其權限及其管轄ノ領分ヲ定ムルハ法律ニ於テ之ヲ爲ス

第六十二條 施体又加辱ノ刑ヲ生スヘキ重罪ヲ裁判スルニ二箇ノ陪

審ヲ用ユ○第一等ノ陪審ハ告訴ノ可否ヲ決ス其告訴可ト定シ上第

二等ノ陪審犯罪ノ有無ヲ決ス其後裁判役ヲ以テ編制シタル重罪裁

判所ハ其罪ヲ擬律シテ罰ヲ定ム但右裁判ニ對シテ控訴スルヲ得ス

第六十三條 重罪裁判所ニ於テ公然原告官ノ役ハ檢事之ヲ勤ムヘ

アキキトシテノアリシ

シ

第六十四條 施体加辱ノ刑ヲ生スヘカヲサル罪ハ輕罪裁判所ニ於テ

之ヲ裁判スヘシ○右裁判ニ對シ重罪裁判所ヘ控訴スルヲ得ヘシ

第六十五條 共和全國ノ爲メ覆審院一箇所アリ右ハ左ノ件々ヲ裁判

ス

第一 裁判所ヨリ言渡シタル終審裁判ニ對シテノ控訴

第二 一箇ノ裁判所ニ送リタル訴事ニ就テ其裁判役ニ對シテ疑念

ノ事由ヲ陳ヘ或ハ國ノ平和安寧ノ目的ヲ陳フルヲ以テ其訴事ノ

裁判ヲ他ノ裁判所ヘ委托セントノ訴願

第三 一箇ノ裁判所ヨリ言渡セシ裁判ニ因リ生シタル損害ヲ其裁

判役ノ全部ニ之ヲ補償セシムルノ訴願

第六十六條 覆審院ハ訴事ノ始末ヲ吟味スルヲ得スト雖モ法式ニ背

ク手續ヲ以テ言渡シタル裁判或ハ法律ニ背反シタル裁判ヲ取消シ

テ其訴事ノ始末ニ管スヘキ裁判所ヘ訴事ヲ送ル

第六十七條 初告裁判所ノ裁判役及檢事ハ邑ノ連名書或ハ州ノ連名

書ニ記名シタル國民中ヨリ撰任スヘシ○控訴裁判所ノ裁判役及檢

事ハ州ノ連名書ニ記名シタル國民中ヨリ撰任スヘシ○覆審院ノ裁

判役及檢事ハ全國ノ連名書ニ記シタル國民中ヨリ撰任スベシ

第六十條 治安裁判役ノ外都テノ裁判役ハ自己ノ職務ニ就テ罪ヲ犯シ或ハ其名ヲ連名書ニ取消サル、場合ノ外ハ終身其役ヲ勤續スヘシ

第七十條 元老院民選議院第一等ノ民撰議院ノ議員或ハ國議院議官ノ犯シタル施体加辱ノ刑ヲ生スヘキ罪ハ其犯人屬スル處ノ院ニ於テ評議ノ上其訴ヲ許セシ後ハ其犯人ヲ常例ノ裁判所ヘ告訴スヘシ
第七十一條 施体加辱ノ刑ヲ生スヘキ私罪ヲ犯セシ卿ニ對シテ國議院議官ノ爲メ定タル右ノ處置ヲ爲ヘシ

第七十四條 初告裁判所及重輕罪裁判所ノ裁判役ハ己ノ職務ニ就テ罪ヲ犯スル者ハ其法ニ背キタル決定ヲ取消シ且其罪ヲ裁判ス

ル爲メ一箇ノ裁判所ヘ送り而後其裁判役ヲ右裁判所ヘ告訴スヘシ

第七十五條 諸卿ノ外都テ政府ノ官員ハ國議院ノ決定ニ因ニ非レハ自己ノ職務ニ管スル所業ニ就テ告訴セラルヘカラス但國議院ノ決定ニヨリ爲シタル告訴ハ平常ノ裁判所ニ之ヲ爲ヘシ

第七十七條 人ヲ取押ユヘキヲ命スル公書ハ左ノ法式ヲ用ヒサレハ之ヲ行フヘカラス

第一 右公書ノ文面ニ其取押フル由縁及之ヲ爲スニ何レノ法律ニ原據スルヲ記載セサルヲ得ス

第二 右取押フヘキ命令ハ法律ニヨリ其取押フルノ權ヲ受タル官員ヨリ發セサルヲ得ス

第三 右公書ノ旨ヲ直ニ本人ヘ報知シ且其寫一通ヲ本人ニ留メ置

カシム

第七十八條 凡監獄吏或ハ守門人ハ人ヲ取押ユヘキコトヲ命スル證書ヲ己ノ簿冊ニ記載セシ上ナラサレハ其人ヲ請取り又拘留スヘカラス但右證書トハ即チ前條ニ記シタル法式ニ從テ發シタル捕票或ハ裁判所ノ捕令或ハ民選議院ノ爲シタル告訴ノ布令或ハ裁判言渡書ヲ云フ

第七十九條 凡監獄吏或ハ守門人ハ其獄舎ノ警察ヲ取扱フ官員ヨリ命セラル、毎ニ囚人ヲ之ニ視メスヘシ但他ノ官員ノ異令ニ托シテ右規則ヲ犯スヘカラス

第八十條 囚人ノ親屬或ハ朋友右警察官員ノ命令書ヲ持參シ囚人ニ面會センコトヲ出願スルキハ監獄吏或ハ守門人之ヲ肯セサルヲ得ス

但警察官ハ此命令書ヲ親屬或ハ朋友ニ與フルコトヲ肯セサルヲ得ス 尤監獄吏或ハ守門人ハ囚人ノ對

面スルコトヲ禁スヘキ裁判役ノ命令書ヲ前以テ受ケ之ヲ獄舎ノ簿冊ニ記入シ且此命令書ヲ視メスヲ得ヘキハ格別トス

第八十二條 人ヲ取押ヘ入牢シ或ハ罪ヲ處スルタメ法律ニ於テ定サル嚴酷ノ處置ハ之ヲ罪トス

第八十五條 軍團ニ屬スル者ノ犯セシ罪ハ格別ノ裁判所ニ於テ格段ノ裁判式ヲ以テ之ヲ裁判スヘシ

○佛蘭西 一千八百〇二年

第七十八條 司法卿ヲ勤ムル裁判總長一人之有ルヘシ

第七十九條 裁判總長ハ元老院及國議院ニ於テ格別ノ席ヲ有スヘシ

第八十條 政府ハ裁判總長ヲシテ覆審院及控訴裁判所ニ上席セシムルコトヲ當然ト思フキハ之ヲ爲サシムルヲ得ヘシ

第八十一條 裁判總長ハ治安裁判所及其官員ニ對シテ監察及督責スルノ權アリ

第八十二條 裁判總長覆審院ニ上席スルキハ覆審院ハ控訴裁判所及重罪裁判所ニ對シテ責罰及取締ノ權ヲ有ス裁判役ハ重キ過誤ヲ爲セシキハ覆審院ハ之ヲ停職スルヲ得或ハ己ノ罪業ノ所以ヲ辨說セシムルニ之ヲ裁判總長ノ面前ニ召ヲ得ヘシ

第八十三條 控訴裁判所ハ己ノ管轄ノ初告裁判所ニ對シテ監察ノ權ヲ有ス又初告裁判所ハ己ノ管轄ノ治安裁判役ニ對シテ同様ノ權ヲ有ス

第八十四條 覆審院ノ檢事ハ控訴裁判所及重罪裁判所ノ檢事ヲ監察スヘシ控訴裁判所ノ檢事ハ初告裁判所ノ檢事ヲ監察スヘシ

第八十五條 覆審院ノ官員ハ第一等ノ宰相ノ薦メニ依リ元老院之ヲ委任ス右官員ノ各欠役ノ爲メ第一等ノヨシユルハ三人ヲ薦ムヘシ

○佛蘭西 一千八百〇四年

第一百條 大審院一箇所ヲ設立シ左ノ罪ヲ裁判セシムヘシ

第一 帝族帝國高位ノ大臣諸卿政府ノ總書記官帝國ノ大官元老院ノ議員國議院ノ議官等ニ對シタル犯罪

第二 國ノ内外ノ安寧ニ對シ或ハ皇帝又繼嗣スヘキ帝族ノ命ニ對

シテ爲シタル虐謀或ハ虐罪

第三 諸卿或ハ施政ノ事務ヲ任シタル國議院ノ議官ニ於テ自ラ責任スヘキコトニ付テノ輕罪

第四 屬國ノ軍長屬國ノ知事佛蘭西國ノ屬地ヲ指令スル官員非常ノ使役ヲ任シタル施政總官及海陸軍ノ將官ヨリ自己ノ職役ニ對シテ爲シタル罪及權外ノコト但海陸軍將官ハ右ノ外法律ニ從テ海陸軍裁判所ノ裁判ヲ受クベキ場合ニ於テ其裁判ヲモ受ヘシ

第五 己ノ受取リシ軍令狀ニ背キシ海陸軍ノ總長

第六 州長ニ於テ己ノ勤務中不法ノ稅ヲ徵シ或ハ國貨ヲ費スコトノ

罪

第七 裁判役ニ於テ己ノ役務ニ付テ爲セシ罪并ニ控訴裁判所或ハ

重罪裁判所或ハ覆審院ノ裁判役ニ對シテ被告人ヨリ爲シタル償害ノ訴訟

第八 人民ヲ無理ニ入牢シタルコト或ハ著書自由ノ元則ノ背犯ニ付テ爲シタル告訴

第百二條 大審院ノ集會所ハ元老院ナリ

第百三條 帝國ノ政府印璽大監ハ大審院ニ上席スヘシ

右大臣病氣不在或ハ本實ノ故障ニ因テ出席スル能ハサル節ハ他ノ帝國大臣右院ニ上席スヘシ

第百四條 大審院ハ左ノ官員ヲ以テ編制ス

帝國大臣及帝國大官

司法卿ノ役ヲ勤ル裁判總長

元老院ノ議員六十人國議院ノ課長六人其議官十四人及覆審院ノ官員二十人但右元老院ノ議員國議院ノ議官及覆審院ノ官員ノ撰擧ハ其任職ノ前後ニ因テ定ヘシ

第一百五條 大審院ニ於テ皇帝ヨリ終身委任シタル大檢事一人アルヘシ○右官員ハ年々民選議員ヨリ第一等ノ民選議院ノ爲シタル九人ノ連名書ノ中ヨリ撰ヒタル下リブハノ議員三人并ニ皇帝ヨリ年々控訴裁判所及重罪裁判所ノ裁判役ノ中ヨリ撰任シタル官員三人ノ輔佐ヲ受ケ大審院ニテ檢事役ヲ勤ム

第一百六條 大審院ニ於テ大書記官一人有ルヘシ皇帝之ヲ任ス

第一百七條 大審院ノ長ハ實正ノ故アレハ裁判ニ管スルヲ肯セザルヲ得ヘシト雖モ被告人ハ其長ノ管スルヲ肯セザルヲ得ヘカラス

第一百八條 大審院ハ其檢事ノ告訴ニ因ラサレハ孰レノ處置モ爲ヘカラス○大審院ノ裁判ヲ受ヘキ輕重ニ付テ原告人之有ルモハ檢事必ス右原告人ノ助告人トシテ左ニ記シタル如ク事ヲ執行スベシ但裁判役己ノ役務ニ付テ行タル罪及裁判役ニ對シテ償害ノ訴訟ノ場合ニ於テモ檢事ハ必ス助告人トナルヘシ

第一百九條 警察官吏并ニ陪審ノ長ハ其裁判スル罪事ハ原被告人ノ分限或ハ告訴ノ性質或ハ其形情ニヨリ大審院ノ裁判ヲ受ヘキヲ發見スルモハ直ニ己ノ裁判手續ヲ差止メ八日間ニ都テ其事件ニ管スル手續證書ヲ大審院ノ大檢事ヘ差出スヘシ但右證書ヲ大檢事ヘ差出セシ後ト雖モ警察官吏其罪ノ證據及罪跡ヲ續キテ探索スヘシ
第一百十條 施政ノ孰レノ職務ヲ委托シタル卿或ハ議官ノ若シ建國法

及帝國ノ法律ニ背キタル命令ヲ出セシハ民選議院ハ之ヲ大審院
ヘ告訴スルヲ得ヘシ

第百十一條 民選議院ニ於テ左ノ官員ヲ大審院ヘ告訴スルヲ得ヘシ

○己ノ役務ニ付テ罪ヲ犯シ或ハ權外ノ所業ヲ爲セシ屬國ノ軍長及
知事國外ノ屬地ヲ支令スル官員及施政總官又己ノ軍令狀ニ背キシ
海陸軍ノ總長并己ノ勤務中不法ナル稅ヲ徵シ或ハ國貨ヲ費セシ
州長

第百十二條 第六十三條及第六十七條ニ從テ元老院ニテ人ノ無理ニ
入牢サレタルト或ハ著書自由ノ元則ヲ背犯サレタルノ推量ヲ發セ
シ并ハ民選議院ハ其處置ヲ爲シタル卿或ハ官員ヲ右ト同様ニ大審
院ヘ告訴スルヲ得ヘシ

第百十三條 民選議院ニ於テ大審院ヘ人ヲ告訴セシ上ハ右告訴ヲ止
ムルニハ第一等ノ民選議院之ヲ願ヒ或ハ民選議院ノ議員五十人内
密議會ヲ爲シ且其中ヨリ十人ヲ定メ民選議院ノ告訴書ノ議按ヲ記
セシムル様ノ願ヲ爲サマルヲ得ス

第百十四條 右孰シノ場合モ其願書ニハ第一等ノ民選議院ノ議長及
書記官ノ花押或ハ民選議院ノ議員十人ノ花押有ラサルヲ得ス如シ
民選議院ノ告訴ハ卿或ハ施政ノ事務ヲ委托シタル議官ニ對シテ爲
シタルハ其告訴ノ主意ヲ一箇月間ニ其被告トセラレタル官員ヘ
報達スヘシ

第百十五條 民選議院ヨリ告訴シタル卿或ハ議官ハ答辨ノ爲メ出席
スルヲナシ○皇帝ハ議官三人ヲ定メ其訴訟ノ始末ヲ解明センカ爲

メ民選議院ニ定タル日限ニ出張セシム

第一百十六條 民選議院ハ内密會議トシテ第一等ノ民選議院或ハ民選議院ノ議員十人ノ願ノ趣ヲ評議シ投票ヲ以テ決議ス

第一百十七條 民選議院ノ告訴ノ公書ニハ事情ヲ明細ニ記シ民選議院ノ議長及書記官之ニ花押スヘシ民選議院公然ノ告書ヲ以テ之ヲ帝國ノ政府印鹽大監^{アルシ、ヤンソリ}ヘ差送リ右大臣ハ之ヲ大審院ノ大檢事ハ送附スヘシ

第一百十八條 屬國ノ軍長及知事國外屬地ノ指令官及施政總長官^{アルミニトタルセキコ}ヨリ爲シタル役務ニ付テノ罪及權外ノ所業并ニ海陸軍ノ總長己ノ軍令狀ニ背キタル所業又州長無理ナル稅ヲ徵シ或ハ國貨ヲ費セシ等ノ罪ハ各省ノ卿ヨリ己ノ職務ニ管スルコトニ付テ之ヲ大審院ノ檢事

局ヘ告訴スヘシ但右告訴ハ司法卿ノ役ヲ勤ル裁判總長ヨリ之ヲ爲スルハ司法卿己ノ告訴ニ管スル裁判ニ參加シ或ハ出席スヘカラス

第一百十九條 第一百十第一百十一第一百十二及第一百十八條ニ定タル場合ニ

於テハ大檢事ハ大審院ヲ集會セシムル旨ヲ三日間ニ帝國ノ政府印

鹽大監^{ヤンソリ}ヘ報知スヘシ帝國ノアルシ、ヤンソリ^ハ皇帝ノ沙汰ヲ窺ヒ

シ上十日間ニ大審院ノ開議ノ日限ヲ定ヘシ

第一百二十條 開議ノ日限ノ集會ニ於テ大審院ハ告訴ノ裁判己ノ權内ニ有ルヤ否ノミ吟味スヘシ

第一百二十一條 大審院ニ於テ訴訟或ハ民選議院ノ告訴ヲ受ルルハ大檢事第一等ノ民選議院ノ議員三人及檢事局ノ輔佐役ヲ任セラレタ

ル裁判役三人第百五條參看ト共ニ右告訴ノ裁判ヲ爲スヘキヤ否ヲ吟味ス
 ヘシ右裁判スヘキヤ否ノ決定ハ大檢事之ヲ獨有ス大檢事ハ右裁判
 役三人ノ内一人ヲ命シ右告訴ノ糾問手續ヲ取扱ハシムルヲ得ヘシ
 ○檢事局ハ大審院ニテ右告訴ヲ受理スルニ及ハストノ認メアレハ
 右ノ旨ノ決定書ヲ作り其原由ヲ書スヘシ大審院ハ右ニ付テノ檢事
 局ノ届書ヲ委托シタル官員ノ論辨ヲ聞入レシ上其決定ノ是非ヲ裁
 斷スヘシ

第百二十二條 大審院ハ右受理スルニ及ハサル趣ノ檢事局ノ決定書
 ヲ承知スル場合ニ於テハ大審院右告訴ニ付テ一定ノ裁判ヲ爲ヘシ
 ○大審院ハ右受理スルニ及ハサル趣ノ檢事局ノ決定ヲ不承知ノ節
 ハ檢事局ニ於テ告訴ノ糾問ヲ必ス續テ爲ヘシ

第百二十三條 前條ニ從テ大審院ニ於テ檢事局ノ決定ヲ承知セサル
 カ或ハ檢事局ハ民選議院ノ告訴ヲ大審院ニテ受理スヘシト思フハ
 ハ檢事局ハ八日間ニ原告狀ヲ作り大審院中ニ帝國ノ政府印璽大監
 ヲリ撰任シタル糾彈官及其代役ニ之ヲ報知スヘシ右糾彈官ノ役ハ
 訴訟ノ糾問ヲ爲シ及夫レニ付テノ届書ヲ制ス

第百二十四條 糾彈官或ハ其代役ハ帝國ノアルシヤンソリニヨリ
 大審院中ニ撰擧シタル元老院ノ議院六人第百四條參看及他ノ大審院ノ官
 員六人都合十二人ヲ大審院ノ名代トナシ原告狀ヲ夫レニ差出シ其
 存意ヲ窺フヘシ但右撰擧シタル名代十二人大審院ノ裁判ニ參加ス
 ヘカラス

第百二十五條 右十二人ノ各代ハ告訴ヲ爲スヘキト思ハ、糾彈官

ハ其決定ヲ記シ捕令ヲ發シ糾問ヲ始ムヘシ

第二百二十六條 若シ右十二人ノ名代告訴ヲ爲ヘカラスト思ハ、糾彈

官其存意ヲ大審院ヘ進メ大審院其告訴スヘキヤ否ヲ決定スヘシ

第二百二十七條 大審院ニ於テ其官員六十人以上出席セザレハ訴訟ヲ

裁判スヘカラス大審院官員ノ内被告人ハ別段ニ其疑惑ノ事故ヲ陳

ズシテ十人以下ヲ辭謝スルヲ得ヘシ檢事モ十人以下ヲ辭謝スルヲ

得ヘシ大審院ノ裁決ハ出席官員ノ過半ヲ以テ定ム

第二百二十八條 大審院ノ裁判席ニ必ス來聽ヲ免スヘシ且其裁決モ公

然ニ爲ヘシ

第二百二十九條 被告人ハ代言人ノ輔佐ヲ受ヘシ如シ被告人自ラ之ヲ

撰バサレハ帝國ノ政府印璽大監代言人一人ヲ命シ之ニ被告人ヲ輔

佐セシムヘシ

第二百三十條 大審院ニ於テ刑法ニ定タル罰ノ外孰レノ罰ヲモ言渡ス

ヘカラズ場合ニヨリ大審院ニ於テ負訴訟人已ノ罪ヨリ生セシ損害

ヲ償フヘキヲ言渡スヲ得ヘシ

第二百三十一條 大審院ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲ス節ハ場合ニヨリ其免

罪シタル被告人ニ政府ノ監察ヲ受サシムヘシ其節右監察ヲ受クヘ

キ期限モ定ヘシ

第二百三十二條 大審院ヨリ爲シタル裁決ニ對シテ孰レノ控訴モ爲ス

能ハズト雖モ右ノ内加辱施體ノ罰ヲ言渡スノ裁決ハ皇帝之ニ調印

セシ上ナラザレハ執行スヘカラス

第二百三十三條 大審院ノ編制及職務ニ管スル右ノ外ノ規則ハ格別ナ

ル元老院ノ決定書ニ記入ス

第三百三十四條 諸裁判所ノ裁判言渡シハ之ヲ裁決ト言フ

第三百三十五條 覆審院ト諸控訴裁判所及諸重罪裁判所ノ長ハ皇帝ヨリ委任ス其上席スヘキ裁判所中ノ外撰舉サル、ヲ得ヘシ

第三百三十六條 覆審院ハ覆審院ノ名ヲ用フベシ控訴裁判所ハ控訴裁判所ノ名ヲ用ヒ重罪裁判所ハ重罪裁判所ノ名ヲ用フヘシ○覆審院

ノ長并ニ諸課ニ分チタル控訴裁判所ノ長ハ第一等ノ長ノ名位ヲ用ヒ其副長ハ長ノ名位ヲ用フヘシ○覆審院ト控訴裁判所及重罪裁判

所ニ勤ル檢事ハ大檢事ノ名位ヲ用ヒ他ノ裁判所ニ勤ル檢事ハ檢事ノ名位ヲ用フヘシ

○佛蘭西一千八百十四年

第五十七條 凡審判ハ國王ノ名義ヲ以テ爲ヘキ者ニシテ國王ヨリ任職シタル裁判役ハ國王ノ名義ヲ以テ之ヲ爲ス

第五十八條 國王ヨリ委任シタル裁判役ハ終身在勤スヘキ者ニシテ之ヲ免職スル能ハス

第五十九條 當今存在シタル平常ノ裁判所ハ續テ勤ヘシ且之ニ變改ヲ加フルニ必ス法律ヲ設ヘシ

第六十條 當今有ル處ノ公益裁判所ヲ續テ用ユヘシ

第六十一條 當今ノ治安裁判役モ續テ勤ヘシ右ハ國王ヨリ委任シタル者ト雖モ之ヲ免職スルヲ得

第六十二條 凡人ハ其犯罪ノ類及其事實ニヨリ法律ニ於テ之ヲ裁判

スル所ノ裁判役ヲ除キ他ノ裁判役ヲシテ之ヲ裁判セシムル能ワス
 第六十三條 凡非常ノ裁判委員或ハ裁判所ヲ設立スヘカラス但警察
 裁判所ヲ再立スルコトヲ然ルヘキト思フキハ格別ナリトス
 第六十四條 重罪ノコトニ付裁判席ニ來聽ヲ許スヘシ然レ其公然ノ吟
 味取締及風儀ヲ害スヘキキハ格別トス此場合ニ於テ裁判所ハ格段
 ノ裁決ヲ出シ以テ内密ノ吟味ヲ爲ヘキ旨ヲ述フヘシ
 第六十五條 陪審ハ續テ之ヲ用フヘシ年月ノ經驗ヲ得テ之ニ變改ヲ
 加フヘキキハ法律ヲ設ケ之ヲ爲スヲ得ヘシ
 第六十六條 財産沒收ノ刑ハ之ヲ廢シ且之ヲ再立スル能ワス

○佛蘭西一千八百
 十五年

第五十一條 皇帝ハ都テノ裁判役ヲ任ス裁判役ハ其委任シタル日ヨ
 リ終身任シタル者ニシテ之ヲ免職スヘカラスト雖モ治安裁判役并
 ニ貿易裁判役ハ今迄ノ通り任スヘキ者ニシテ格別トシ尙千八百七
 年十月十二日附元老院ノ建國決定書ニ從ヒ皇帝ヨリ任シ且當今已
 ニ勤ル所ノ裁判役ハ來年正月迄終身ノ委任狀ヲ之ニ與フヘシ
 第五十二條 陪審ノ制度ハ今迄ノ通り之ヲ用フヘシ
 第五十三條 重罪ノコトニ付テノ裁判席ニ來聽ヲ免スヘシ
 第五十四條 軍律ニ管スル輕罪ノミ軍事裁判所ノ管轄ニ歸スヘシ
 第五十五條 總テ他ノ輕罪ハ假令軍事ニ屬スル者ノ犯シタリト雖モ
 平常裁判所ノ管轄ニ歸スルナリ
 第五十六條 元ト大審院ノ裁判スヘキ所ノ重輕罪ノ内此建國法ニ因

リ上院ニ於テ裁判スヘキ罪ニ非レハ通常ノ裁判所ヘ之ヲ訴フヘシ
第五十八條 若シ覆審院ヨリ法律ノ判斷ヲ願フルハ之ヲ爲スニ法律
ノ休裁ヲ用フヘシ

○佛蘭西一千八百三十年

第四十八條 凡審判ハ國王ヨリ發スヘキ者ニシテ國王ヨリ任職シタル
ル裁判役ハ國王ノ名義ヲ以テ之ヲ爲ス

第四十九條 國王ヨリ委任シタル裁判役ハ終身任ズヘキ者ニシテ之
ヲ免職スル能ワス

第五十條 現在ノ通常裁判所ハ續テ勤ヘシ且法律ヲ以テスルニ非レ
ハ之ニ變改ヲ加フヘカラス

第五十一條 現今貿易裁判所ハ續テ之ヲ用ユ

第五十二條 當今ノ治安裁判役モ續テ勤ヘシ右ハ國王ヨリ委任シタル
ル者ト雖モ之ヲ免職スルヲ得ヘシ

第五十三條 凡人ハ其犯罪ノ類及其時宜ニヨリ法律ニ從テ之ヲ裁判
スヘキ所ノ裁判役ヲ除キ他ノ裁判役ヲシテ之ヲ裁判セシムルヲ得
ス

第五十四條 凡非常ノ裁判委員或ハ裁判所ヲ設立スヘカラス

第五十五條 凡重罪ノコトニ付テノ裁判席ニ來聽ヲ許スヘシト雖モ若
シ其公然ノ吟味ヨリ取締及風儀ノタメ害ヲ生スヘキハ格別トス
此場合ニ於テ裁判所ハ格段ノ裁決ヲ出シ以テ内密ノ吟味ヲ爲スヘ
キ旨ヲ述フヘシ

第五十六條 陪審ハ續テ之ヲ用フヘシ尙年月ノ經驗ヲ得テ其規則ニ
變改ヲ加フヘキヲ顯ハル、キハ法律ヲ設ケ以テ之ヲ爲スヲ得ヘシ
第五十七條 財産沒收ノ刑ハ之ヲ廢シ且以後之ヲ再立スルヲ得ス

○佛蘭西一千八百四十八年

第八十一條 凡審判ハ佛蘭西國民ノ名義ヲ以テ爲ヘキ者ニシテ無給
ニテ之ヲ爲ヘシ○裁判ノ事件ニヨリ國ノ取締及風儀ヲ害シテ公ノ
裁判ヲ爲ス能ハサル場合ノ外凡テ裁判ノ席ニ必ス來聽ヲ免スヘシ
但公ニ裁判ヲ爲ス能ハサルキハ裁判役ハ格段ノ裁判言渡ヲ以テ其
旨ヲ公告スヘシ

第八十二條 重罪裁判ノ爲メ是迄ノ通り陪審ヲ用ユヘシ

第八十三條 輕罪ト雖モ政事上並ニ刻書ヲ以テ爲ス處ノ輕罪ナレハ
陪審ノミ之ヲ審判スヘシ尙シ國民間ノ惡口ト汚名ノ間ノ輕罪ニ歸
スヘキ所ノ裁判管轄ハ裁判官ノ設立ニ付テノ法律之ヲ定ヘシ

第八十四條 刻書ノ輕罪ニヨリ或ハ刻書ニヨリ損害ヲ受タル人ノ爲
ス處ノ損害償金ノ願訴ハ陪審自ラ之ヲ裁決スヘシ

第八十五條 治安裁判役並ニ其代役ト初審裁判所並ニ控訴裁判所ノ
裁判役ト覆審院ノ裁判役並ニ計算總檢査院ノ裁判官ハ共和政治統
領之ヲ任ス但之ヲ任スル爲メ裁判官設立ノ法律ニ定ヘキ所ノ勸告
ノ規則ニ從フヘシ

第八十六條 檢事局ノ官員ハ共和政治統領之ヲ任ス

第八十七條 初審裁判所控訴裁判所及覆審院等ノ裁判役並ニ計算總

検査院ノ裁判官ハ終身任セラルヘキ者ニシテ裁判言渡ニヨラサレハ之ヲ免職或ハ停職スヘカラス且法律ニ定タル處ノ原由ニヨラス法律ニ定タル法式ヲ用ヒスシテ之ヲ隱居セシムル能ワス

第八十八條 海陸軍裁判所及同控訴裁判所軍港裁判所貿易裁判所工部裁判所並ニ他ノ常外裁判所ハ法律ヲ以テ之ヲ變改スルマテハ現今ノ編制及事務章程ヲ守保スヘシ

第八十九條 施政官ト裁判官トノ權限抵觸ノ總論ハ覆審院ノ裁判役並ニ國議院ノ議官ヲ以テ編制シタル常外裁判所一箇所ニ於テ之ヲ裁斷スヘシ但覆審院及國議院ハ三箇年目ニ己ノ院中ヨリ其裁判所ヘ勤ヘキ官員ヲ撰任スヘキ者ニシテ雙方同數ノ官員ヲ任スヘシ
○裁判事務總裁右裁判所ノ長タルヘシ

第九十條 計算總検査院ヨリ己ノ職務ニ歸セサル處分ヲ爲シ或ハ己ノ權外ノ處分ヲ爲シタルニヨリ其處分ニ對シテ爲シタル處ノ控訴ハ前條ニ記シタル權限抵觸ノ總論裁判所ニ之ヲ出スヘシ

第九十一條 大審院一箇所ヲ設ケ右ハ民選議院ヨリ共和政治統領或ハ諸卿ニ對シテ爲シタル訴ヘヲ審判スヘシ且其審判ニ對シテ控訴ヲ爲スヲ得ス又覆審院ヘ此審判ヲ訴フルヲ得ス尙國家内外ノ安寧ニ對シ謀叛ヲ爲シ或ハ徒黨ヲ爲シタル人ヲ民選議院ヨリ大審院ヘ送ルルハ大審院之ヲ裁判スヘシ○第六十八條ニ記シタル場合ノ外ハ大審院及民選議院ノ布令ニヨリ召集セサレハ集會スヘカラス但召集ノ布令ニ於テ大審院集會スヘキ處ノ市街ヲ定ヘシ

第九十二條 大審院ハ裁判役五人及陪審三十六人ヲ以テ編制ス○每

年十一月始ノ十五日間ニ覆審院内密ノ投票ノ過半ヲ以テ大審院ノ爲メ己ノ員中裁判役五人並ニ裁判代役二人ヲ任スヘシ右五人ノ裁判役中裁判長一人ヲ任スヘシ○大審院ニ於テ檢事役ヲ勤ヘキ裁判官ハ共和政治ノ統領ヲ之ヲ任スヘシ尤共和政治ノ統領並ニ諸卿ヲ民選議院ヨリ訴フルコトノ場合ニ於テハ民選議院之ヲ任スヘシ○陪審三十六人並ニ代役四人アルヘキ者ニシテ右ハ州民議院ノ職員中ヨリ之ヲ撰任スヘシ但代議者ハ之ヲ勤ヘカラス

第九十三條 民選議院ニ於テ大審院召集ノ布令ヲ出シタル時並ニ第六十八條ニ定タル場合ニ於テハ大審院ノ長或ハ大審院ノ裁判役一人ノ請求ニヨリ州ノ控訴裁判所ノ長或ハ控訴裁判所アラサルキハ州ノ裁判管轄ニアル首府ノ初審裁判所ノ長公然ノ會席ニテ州民議

院ノ議員一名ヲ探闖ヲ以テ撰フヘシ但右ハ陪審ニ任スルナリ

第九十四條 裁判ノ日限ニ至リ若シ陪審六十員出席セサレハ大審院ノ長大審院集會スル所ノ州民議院ノ議員中陪審副役幾人ヲ探闖シ陪審ノ不足ニ充スヘシ

第九十五條 陪審員中不參ノ者ハ其差支ヘノ相當ナル次第ヲ述フル能ハサル時ハ五百ラビ貨幣名ヨリ一萬ラビマテノ罰金ヲ言渡シ且五年以内ノ時間中政權ノ剝奪ヲ言渡スヘシ

第九十六條 大審院ニ於テ平常ノ裁判ニ付テ如シ被告人并ニ檢事役ハ陪審員中己ノ信用セサル處ノ員ノ裁判ヲ辭スルコトノ權ヲ行フヲ得ヘシ

第九十七條 陪審ヨリ人ニ對シテ爲ス所ノ有罪決定ハ陪審員ノ三分

ニ之ヲ認メサレハ爲ヘカラス

第九十八條 諸卿責ニ任スヘキ處ノ總ノ場合ニ於テハ其訴ヘラレタル卿ノ犯罪ニヨリテ出タル損害償金ノ願ヲ裁斷セシムルニハ民選議院事宜ニヨリテ其訴ヘラレタル卿ヲ大審院或ハ通常裁判所ヘ送ルヲ得ヘシ

第九十九條 民選議院并ニ共和政治統領ハ孰レノ場合ニ於テモ孰レノ官員ノ處分及吟味ヲ國議院ヘ任スルヲ得ヘシト雖モ共和政治統領ノ處分ハ此例ニ非ラス但其節國議院ヨリ爲ヘキ所ノ吟味ノ屆書ヲ公告スヘシ

第一百條 共和政治統領ハ大審院ノミ之ヲ裁判スルヲ得ヘシ且第六十八條ニ定タル場合ノ外ハ民選議院ヨリ爲シタル處ノ原告ニ基キテ

ノミ統領ヲ訴フルヲ得ヘキ者ニシテ法律ニ定タル重輕罪ニノミ此原告ヲ爲スヲ得ヘシ

第一百四條 裁判官ヲ設立スル爲メノ法律ニ於テ新裁判所ヲ編制スヘキ方法ヲ定ヘシ

○佛蘭西一千八百五十年

○千八百五十一年十二月二十日及二十一日ノ投票ニ因リ佛蘭西人民ノ路易拿崙保那巴ニ授ケシ威權ヲ以テ制定シタル憲法

第七條 裁判ハ大統領ノ名ヲ以テ之ヲ行フ

第五十四條 大審院ハ共和政治ノ大統領及ヒ國ノ内部外部ノ安寧ニ對シ重罪暴行陰謀ノ罪ヲ犯シタル訴ヲ受ケ呼出サレタル者ヲ審判ス可シ但シ被告人大審院ノ言渡ニ服セスト雖モ之ヲ控訴スルコトヲ

許サス又其言渡ノ取消ヲ覆審院ニ訴フルヲ許サス
共和政治ノ大統領ノ命令アルニ非サレハ大審院ニ訴出スルヲ得
ス

第五十五條 大審院ヲ建設スル法則ハ元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定
ム

○英吉利

卷一第十七條 凡民法裁判所ハ朕ノ朝ニ付テ動搖セス必ス一處ヲ定
メ常ニ之ヲ設置スヘシ○民法裁判所ハ即今英國最上裁判所ノ一ナ
リ英ノ國法ニテ帝ハ眞理淵源ト云故ニ裁判所ハ常ニ帝ノ至ル所ニ
隨フ然ルニ英王一官ニ駐輦スルヲ好マス東西南北行輦常ナシ裁判

所從フテ轉徙ス國民之ヲ苦ム今其處ヲ確定ス

第十八條 凡不動産訴訟法ノ三種曰「ノベルデシー」曰「モートダン
セスタ」曰「ダレンプレセントメン」等ノ糾問ハ必ス其訴訟ノ起リ
シ所ニ於テ下ニ掲ル方法ヲ以テ裁判ヲ爲ヘシ朕審判官二員ニ命シ
テ一箇年四回各州ヲ巡廻セシメ各州ニ於テ其州中ノ大夫諸士四名
ヲ人民ヨリ撰擧セシメ右審判官ト共ニ其期日ニ并ニ其所ヲ定メ裁
判所ヲ開クヘシ○不動産訴訟法ノ三種曰「ノベルデシー」曰「モートダン
ニ領地ヲ得ル權利ヲ裁判スルル」曰「モートダンセスタ」トハ死シ
タル先祖ノ權利ニ因リ領地ヲ得ントスルル」曰「ダレンプレセン
トメン」トハ寺刹ノ領地ヲ人ニ與フルル」曰「ノ各皆昔ノトニシテ今ハ
ナシ故ニ之ヲ略ス○審判官二人諸國ヲ巡廻ス是則巡廻裁判ニテ今

己ニ動スヘカラサルノ國法ナリ

第十九條 若シ其期日ニ當リ其州裁判ヲ開クコト能ハサレハ其州ノ大
夫諸士數名ヲ遺シ置キ之ヲシテ期日ニ方リ裁判ヲ開キ訴訟ノ大小
ニ由テ各其適宜審判ヲ爲サシムヘシ

第二十條 凡良民ハ小過ニ因テ匪法ノ罰金ヲ徵收セラレサルヘシ唯
其輕重ニ因テ之ヲ定メ及大罪ハ其罪惡ノ多少ニ因リ罰金ヲ徵收セ
ラルヘシ但必ス其人糊口ノ料及商人ナラハ其商賈物品等ハ其人ニ
殘シ置ヘシ

一 凡奴隸若シ朕カ權内ニ歸スルキハ亦同シク罰金ヲ徵收セラル
ヘシ但其耕作農具ヲ殘シ置ヘシ

一 此罰金ハ皆必ス其近鄰善人ノ誓詞證據アルニ非レハ決シテ徵

收スヘカラス

第二十一條 凡侯伯ハ其同列ノ證據人アルニ非レハ罰金ヲ徵收セラ
レサルヘシ且必ス其罪ノ大小輕重ニ因リ其數ヲ定メ決シテ過度ノ
金ヲ要セラレサルヘシ

第二十二條 凡聖會ノ僧侶ハ其俗有ノ領地ニ因リ罰金ヲ徵收セラル
、キハ必ス前條ノ法ニ由リ決シテ聖會領地ニ適スル罰金ニ非ルヘ
シ○聖會領地ニ適スル罰金ハ重ク俗有領地ハ輕シ當時己ニ僧侶ノ
跋扈ヲ壓ヒ之ヲ壓制スルノ端ヲ看ニ足ル

第二十四條 凡州官保長驗屍官及縣官コンスタブルゴロナーハ民法裁判所ヲ開ヘカラス○
有司橫行ノ弊害ヲ矯ル也

第二十六條 凡土地ヲ有シタル俗人朕ニ負債アリテ死シ州官或ハ縣

官其債ヲ督催ノ爲ニ呼出シ狀ヲ所持シタル者ハ其領地ニ在ル諸物品ヲ其負債ニ適スルダケヲ記載スルコトヲ得ヘシ但必ス其所ノ善人ノ前ニ於テ之ヲ爲ヘシ

一 朕カ債ヲ悉ク償却スルマテハ一品ニテモ他ヘ動スヘカラス其餘ハ悉ク死人ノ受托者ニ渡シ之ヲシテ其遺書ノ通り處分セシムムヘシ

一 若シ死人朕ニ負債ナクンハ其什物ハ其妻子法通りノ遺物ヲ除クノ外ハ悉ク死人〔受托者〕ニ渡スヘシ

第二十七條 凡良民死シ遺書ナキハ其什物家具ハ其債主ヘ悉ク償却ノ餘ハ聖會ノ監督ニ由リ死人ノ最近キ親族之ヲ處分スヘシ

第二十八條 凡保長又縣官ハ必ス現價ヲ拂ヒ先ツ賣主ノ許可ヲ得ル

ニ非レハ人ノ五穀又物品ヲ買取ルヘカラス

第三十六條 凡死傷人アルハ驗視官ヲ派出スルニ付其償金ヲ要スヘカラス必ス無稅ニテ之ヲ派出シ決シテ之ヲ否ムヘカラス

第三十八條 凡罪ヲ訴ル者一人ニテ人ヲ水火鬪戰ノ試験ニ入ルヘカラス但此試験ハ先ツ證據人其實ヲ顯ハシタル後ナルヘシ○水火鬪戰ノ試験トハ昔シ犯罪糾問ノ被被告人其罪ニ服セス其眞偽分明ナラサルハ入水或ハ熱湯ニ手ヲ入レ或ハ火鋏ヲ握リ或ハ兩人決戰シ其害ヲ逃ル、者ハ罪ナシトス之ヲ英語ニテア―デールト云

第四十條 朕決シテ人ノ權利或ハ其直理裁判ヲ賣リ又之ヲ否ミ又之ヲ淹滯スヘカラス○昔ハ裁判ヲ賣ルコトアリ

第四十四條 凡皇帝ノ森林外ニ住居スル者ハ尋常ノ呼出狀ヲ以テ森

林裁判官ノ前へ呼出サルヘカラス只森林ノ法ヲ犯シタル者ハ其原
告人確乎タル法通りノ證據ヲ以テ訴出タルキ又此犯罪ニ由テ已ニ
捕縛セラレタル者ノ保管人等ハ此限ニ在ラス○昔ハ帝ノ森林ニ多
ノ禽獸ヲ放チ帝ノ遊獵ニ備フ嚴禁アリテ若シ其獸ヲ殺ス者ハ死ス
其餘數條ノ苛法アリ人民甚之ヲ苦シム

第四十六條 凡侯伯寺庵ヲ建立シ或ハ寺庵ノ住職ヲ命スルノ權利ノ
免許ヲ得タル者或ハ古來之ヲ有スル者等ハ其寺庵無住ノ間ハ之ヲ
保管スルノ權利アルヘシ○英法ニテ初メ寺庵ヲ建立シタル者ハ其
住職ヲ命スルノ權利アリテ他ノ家財ト共ニ子孫ニ傳フ之ヲアトバ
ウソレト云

第五十二條 若シ法律ニ因ラス同列ノ裁判ニ非スシテ人ノ土地城邸

ヲ褫奪スルコトアレハ直ニ之ヲ其舊主ニ還付スヘシ若シ此等ノ事件
ニ付爭論起ラハ下ニ命スル所ノ二十五人ノ侯伯ヲシテ之ヲ評定セ
シムヘシ此二十五侯ハ國家治安ヲ保守セン爲ニ兼テ撰任スル者ナ
リ且先帝朕皇考ヘヌリ止及皇兄^{リッ}チャール^トノ時法律ニ由ラス
同列ノ裁判ヲ經スシテ褫奪シタル土地現在朕或ハ餘人之ヲ占有シ
輒ク動スヘカラサルノ保證アル者ハ十字軍歸陣ノ後ニ之ヲ評定ス
ヘシ尤十字軍以前ニ起シ訴訟糾問等ハ此限ニ非ス朕羈旅ヨリ歸リ
直ニ之ヲ審理スヘシ○昔シ耶蘇誕生ノ土地土耳其格ニ奪ハル耶蘇宗
ノ人大ニ之ヲ憤リ大軍ヲ起シ之ヲ復セントス此兵卒皆十字架ヲ肩
胸ノ間ニ懸ケ以テ標ト爲ス世之ヲ稱シテ十字軍ト云蓋シ耶蘇所刑
ノ苦ヲ記憶スルナリ

第五十四條 凡婦人ノ告訴ニ據テ人ヲ捕縛スヘカラス其夫ノ横死ニ係ル者ハ此限ニ非ラス

卷四第一條 凡州官監獄自餘ノ官吏等其保管スル囚人ノ爲メニ出シタル出獄票ヲ齎シ來ル者アリ而シテ之ヲ其主任又其次官代人屬吏等ニ渡スルハ其官吏又代人必ス其囚人ヲ大墮官又嘗テ其票ヲ宣行シタル審判官裁判所ニ拘引シテ糾問ノル其囚人ノ繫獄セラレタル所以ノ憑証ヲ以テ答フヘシ但囚人二十里凡我八里以内ナラハ三日ノ内二十里以外百里以内ナラハ十日ノ内百里以外ナラハ二十日ノ内ニ必ス之ヲ其裁判所ニ拘引スヘシ○右ノ票ヲ齎シ來ル者ハ必ス其官吏ニ先ツ其旅費ヲ渡シ且若シ其囚人繫獄セラレヘキ憑証アリテ再ヒ其獄ニ還付セラル、ルハ心ス其費用ヲ資辨シ及途中ニテ逃亡等

テ逃亡等ノ過失無キ旨等自分之ヲ保結スヘシ此費用ノ高ハ嘗テ票ヲ出シタル審判官之ヲ定メ其背後ニ記スヘシ但一里毎ニ十二ペシトヨ過クヘカラス○叛逆重罪等ニテ繫獄セラレ初ヨリ其收監牌ニ罪狀明瞭ナル者ハ此限ニ非ラス

第二條 凡州官監獄官吏等ヲシテ此票ノ重キヲ知ラシメン爲ニ出獄票ニハ必ス之ヲ宣行シタル官員ノ姓名ヲ記シ且左ノ如ク記載スヘシ

皇帝ヲヤール区二世三十一年ノ定書ニ據リ

若シ裁判所ノ休暇中ニ繫獄セラレタル者ハ自分又代人之ヲ大墮官又便宜ノ審判官ニ控訴スルノ權利アルヘシ而シテ大墮官又審判官右ノ控訴人ヨリ出獄票ヲ請フルハ先ツ其收監牌ノ寫ヲ檢閲シ然ル

後出獄票ヲ付與シ自ラ管スル裁判所ノ印章ヲ以テ囚人ノ保管人ニ命令シテ直ニ自分ノ前ニ囚人ヲ連レ來ラシムヘシ○若シ監獄者其收監牌ノ寫シヲ付與スルヲ否ムキハ控訴人ヨリ其得ルヲ能ハサルノ誓詞ヲ得テ而後前文ノ手續ヲ爲ヘシ○保管人ハ此票ヲ得ルキ前條云所ノ定日内ニ必ス囚人ヲ大廳官又審判官ニ拘引シ其糾問ノ時其繫獄セラレタル所以ノ憑証ヲ以テ答フヘシ○此時大廳官又審判官ハ先ツ囚人ヲシテ次ノ裁判時季ニ至リ刑法裁判所又巡廻裁判所等當ニ其裁判セラルヘキ所ニ出願セシムヘキ爲ニ其保證人ヲシテ囚人相當ノ保結金ヲ以テ之ヲ請合ハシメ二日内ニ囚人ヲ釋放スヘシ但囚人ノ繫獄セラレタルハ刑法裁判ノ權利アル所ニ於テ國法ノ糾問ヲ經テ其當然ノ牌票アルカ又審判官ヨリ出タル牌票アリテ國

法ニ於テ保領釋放スヘカラザル罪狀明瞭ナル者等ハ此限ニ非ラス

第二條 凡囚人其繫獄セラレタル日ヨリ二周時季凡六箇月ノ間出獄票ヲ願出サル者ハ其後之ヲ願ヒ出ルトモ休暇中ニハ決シテ之ヲ許與スヘカラス

第四條 凡州官監獄自餘ノ官吏囚人ヲ保管スル者其囚人ニ付前條ノ票ヲ得而シテ後前條ノ定日内ニ囚人ヲ其命令スル所ニ拘引セサル者并ニ囚人又代人ヨリ收監牌ノ寫シヲ請フキ之ヲ付與セサル者等ハ其初犯ニハ金百ポンド貨幣名再犯ニハ二百ポンドヲ徵收シ冤ヲ蒙ル者ニ付與スヘシ且再犯ニハ其本職ヲ免スヘシ○保管人前文ノ如キ犯罪アルキハ冤罪ノ者之ヲ上等裁判所ニ出訴シ其償金ヲ要收ス

ルノ權利アリ

第五條 凡一度出獄票ニ由リ釋放セラレタル者ヲ其初發ノ犯罪ニ托シ再度繫獄スル者并ニ之ヲ知リツ、其捕縛ヲ助ル者等ハ其冤ヲ受タル者ニ五百兩^{ポンド}ノ罰金ヲ出ヘシ尤之ヲ繫獄シタルニ付曖昧タル收監牌アリト雖モ此罰金ヲ逃ル、能ハス○但初メ之ヲ釋放シタルモ再ヒ出頭ヲ命シタル裁判所又其當ニ裁判セラルヘキ裁判所ニ於テ尋常國法ノ裁判ヲ受ケ繫獄セラレタル者ハ此限ニ非ラス

第八條 凡犯罪ノ告ヲ以テ繫獄セラレタル囚人ハ出獄票アルカ又別ニ法例ノアル官牌アルニ非レハ決シテ之ヲ他ノ獄ニ轉徒スヘカラス○官吏若シ此法ニ背キ囚人ヲ他ノ獄ニ轉徒スルノ命令牌ヲ出シ又之ニ檢印スル者并ニ此命令牌ニ從ヒ之ヲ實行ニ施ス者等ハ罰

金ヲ徵收セラル、^{ゴート}都テ前條ノ如ク初犯再犯各差アリ但巡廻審判官又州郡審判官ノ命令ヲ以テ徵役場又改過場ニ送付シ或ハ其糾問便宜ノ爲メ又傳染病火災ノキ同州中甲獄ヨリ乙獄ニ移ス等ハ此限ニ非ラス

第九條 凡囚人タル者ハ前條ニ掲ケシ如ク大廳官裁判所租稅裁判所^{ゴート}刑法裁判所民法裁判所便宜出獄票ヲ要請スルノ權利アリ○而シテ囚人前條ニ云所ノ規則ヲ以テ之ヲ要請スト雖モ大廳官又審判官之ヲ許與セサルモ^{ゴート}毎犯五百兩^{ポンド}ノ罰金ヲ徵收シ冤ヲ蒙ル者ニ付與スヘシ

第十條 凡英國中^ウエルス中^ウルウ井^ウ井^ウ邑及^ウシャヤセー^ウガンセ^ウ山^ウノ二島ハ假令反對ノ古法アリモ此定書ニテ定タル出獄票ノ通セサル所

ナカルヘシ

第十一條 凡匪法海外ノ繫獄ヲ豫防セン爲ニ其法ヲ定ム左ノ如シ

一 凡英國中ウエル区中ニ住居スル此帝國ノ臣民ハスコットランド
又イルラン^トシヤセ^トガンゼ^ト島及其餘屬地他國ヲ問ハス海外
ヘハ捕流監送セラルヘカラス若シ現今將來此ノ如キ監送アラハ
悉ク之ヲ匪法ノ收監ト見做シ宛ヲ受タル者ハ偽作收監^{フスルスインフリンメント}ノ法ヲ以
テ訴訟ヲ起シ便宜ノ裁判所ニ出テ此匪法ノ收監ヲ命令シタル人
及之ヲ賛成シ施行シタル人等ヲ罪狀スルノ權利アリ○此原告人
ハ賠補銀ノ外ニ其訴訟費ノ三倍ヲ要收スルノ權アリ且賠補銀ハ
五百^{ポンド}ヨリ少カルヘカラス○此裁判ハ決シテ特別免許等ノ
ヲ以テ淹滯スヘカラス○此犯罪人ハ主從共後來信任高祿ノ官

職タルヲ得ヘカラス其上^リツチャール^ド二世ノ^ニ定シ^テアレメニ^テア
止^ルノ刑ヲ蒙リ皇帝ノ恩典免宥ヲ受ル^{コト}能ハサルヘシ

第十三條 凡囚人裁判所ニ於テ國法ニ由リ重罪ノ律ニ處斷セラレタ
ル者海外ヘ徒流セラレン^{コト}ヲ願望スル者ハ其審判官考按ノ上之ヲ
然リトスル者ハ海外ヘ徒流セラル^{コト}ヲ得ヘシ

第十五條 凡スコットランド又イルラン^ド其餘海外屬地ニ於テ死罪ヲ
犯シタル者假令英國中ニ住居スルト雖^モ之ヲ捕縛シ其犯罪ノ地ニ
送致シ以テ之ヲ裁判スル^{コト}從前ノ如クナルヘシ

第十六條 凡此法律ヲ犯シタル者ハ其犯罪ノ^後ヨリ二年以内ニ之ヲ
出訴セラル^{コト}ニ非レハ之カ爲ニ糾問セラルヘカラス或ハ其ニ付キ
障碍ヲ受ヘカラス但宛ヲ受タル者當時繫獄中ナラハ其死後又解放

後二年以内ニ其訴訟ヲ起セハ尙之ヲ糾斷シ其罰金ヲ追徴スルヲ得ヘシ

第十七條 凡囚人巡廻裁判ノキ其糾問ヲ逃避セシ爲ニ或ハ出獄票ヲ得ル者等ヲ豫防セン爲ニ其法ヲ定ル左ノ如シ

- 一 凡州郡ニ於テ巡廻裁判ノ時限ヲ布告シタル後ハ其州ノ囚人ハ出獄票ヲ以テ他ニ轉徒セラルヘカラス只此出獄票ヲ巡廻裁判所ニ齎ラシ來ルキハ其審判官直ニ之ヲ處斷スヘシ

第十八條 凡巡廻裁判終リテ尙繫獄セラル、者ハ出獄票ヲ得ルノ權利アルヘシ

第二十條 従前數小逆重罪等ノ疑ヲ以テ繫獄セラレタル者唯其疑罪ノ輕重ヲ以テ保領釋放セラルヘキヤ否ヲ定ム而シテ其輕重ハ囚人

ヲ捕縛セシメタル審判官又之ヲ糾問スル審判官等ノ判斷ニ委任セリ故ニ今左ノ法ヲ定ム

- 一 凡小逆重罪ハ主從ヲ問ハス其告訴ヲ以テ繫獄セラレ未タ其實ヲ定スト雖モ其收監牌ニ其罪狀明瞭ナル者ハ従前ノ如ク出獄票ヲ以テ釋放スルヲ得ス

卷五第八 巴里門ノミ裁判スルノ權アル事件ヲ屬キリシヤ刑法裁判所ニ於テ處斷シ并ニ種勝手次第ノ匪法ヲ用フル事

- 第九 近來陪審官ハ種々恣惡不適ノ人ヲ出シ就中叛逆人ヲ糾問スルキニ當リ領地ナキ者ヲ以テ陪審官ト爲シ以テ國法ニ戻ル事
- 第十 犯罪ヲ以テ繫獄セラレタル者ノ保結ベールノ爲ニ匪法ノ大金ヲ要シ以テ人民ノ自由ヲ保護セシ爲ニ建テシ法モ亦畫餅トナル

事

第十二 匪法ノ保結金ヲ迫取シ且匪法暴逆ノ刑ヲ行フ事

卷五第三 近來置カレシ宗旨僧侶全權裁判所并ニ類似ノモノハ皆違法ニシテ害難アリ

卷六 凡審判官ハ一旦之ニ任セラレタル者ハ犯罪惡行等アルカ又兩議院連署シテ之ヲ退ント言ヒ出タル者等ニ非レハ之ヲ退免スヘカラス且其俸祿ハ常額アルヘシ

○獨逸

第七十四條 帝國ノ成立保全安寧及國憲ニ對セル諸般ノ未遂ノ罪又口述書付出版繪圖等ヲ以テ上院及下院ヲ侵スノ罪又兩院ノ議員及

帝國ノ上等下等ノ官吏等ハ其職務ノヲニ關シテ上ニ舉クル犯罪者ヲ聯盟各邦ニ於テ裁判シ及之ヲ罰スルキ其之ヲ裁判シ及之ヲ罰スルノ方法ハ各國ニ於テ其兩院ノ議員ト上等下等ノ官吏ニ對シテ侵シタル罰ヲ聯盟各邦及其各邦ノ國憲ニ定ムル所ニ照準シテ同様ノ法律ニ循フヘシ

第七十五條 第七十四條ニ記載スル所ノ獨逸帝國ニ對セル種ノ未遂罪ハ聯盟各邦ニ於テノ未遂罪ト同様ナルカヲ其各邦ノ法律ニ照準シ而シテ其罪大逆又謀反ニ適シタル罪ナラハハリユベッダニ在ル三箇所ノハンゼスタツトノ最上等裁判所ノミニ於テ之ヲ裁判スヘシ○右最上等裁判所ノ其裁判權ト治罪權トニ關シタル種ノ權限ハ帝國ノ法律ニ定タル方法ヲ以テ之ヲ決定スヘシ若シ帝國ノ法律ノ設アラ

サルハ聯盟各邦ノ裁判所ノ裁判權及治罪權ノハ從前用ヒサル規則ニ循フヘシ

第七十六條 聯盟各邦數箇國ノ爭論ハ私法ニ關セサルハ通常ノ裁判所ニ於テ之ヲ裁判スルヲ能ハサル故ニ其爭論ニ關シタル一方ノ國ノ訴訟上ニテ上院之ヲ判決スヘシ○國憲ニ關シタル爭論ヲ判決スヘキ官吏ヲ定サル聯盟各邦ニ於テ其爭論アルハ之ニ關シタル一方ノ訴訟上ニ付テ上院へ訴ヘシキ其上院ハ親シク之ヲ勸解スヘク或ハ之ヲ勸解スルヲ能ハサルハ上院ノ決定ヲ以テ之ヲ判決スヘシ

第七十七條 聯盟各邦ノ一國ニ於テ裁判ヲ爲スヲ肯セサルコアリテ法律ノ通常ノ方法ヲ以テ之ヲ勸解スルヲ能ハサルハ右ノ事ニ付

テ其各邦ノ國憲及法律ニ循フテ之ヲ判決スヘキ真正ノ訴ナルハ上院之ヲ受ヘシ而シテ裁判ヲ爲スヲ肯セサル各邦ノ政府ニ於テ其事ヲ裁判セシムヘシ

○普魯西

第八十六條 司法權ハ不羈ノ諸法衙ニ由リ普魯西全國凡一ノ大法院
二十二ノ控訴院四十六ノ安裁判所得商工裁判係國王ノ名ヲ以テ之ヲ施行ス諸法衙ハ法章ヲ除クノ外他ノ權威ニ從フコナシ政府ニ從屬セス
故ニ不羈トス○裁判ハ國王ノ名ヲ以テ宣告及決行ス中古ハ藩國之ヲ行フ者アリ
今專ラ國王ノ名ヲ以テスレハ訟獄ノ權ヲ統ナスル

第八十七條 諸法官ハ國王ニ由リ或ハ國王ノ名ヲ以テ終身ヲ期シ撰

任ス國王ノ名ヲ以テ司法執○諸法官ハ法章ニ定タル事故ノ爲ニ
 審判之ヲ掌リ控訴院ノ紀律ハ大法院之ヲ掌ルヲ受タルニ由ルヲ除
 クノ外官ヲ免シ及職外官トスルヲ得ス職外官ハ職ニ在ラズク○
 審問中職外官ト爲シヲ審問中ニ假ニ其職及本人願ハザルノ轉所乙裁
 ヲ以テ轉所ヲ願ハサル者ハ其意ニ隨フ及老退ヲ命スルハ老廢ノ故
 ヲ辭スル者ハ仍ホ俸給ノ四分一以上ヲ受ク其自法章ニ定タル事故
 ノ爲ニシ法章ニ定タル規程ニ從ヒ而シテ審判ニ由ルニ非レハ之ヲ
 行フヲ得ス但事務ノ爲ニ己ムヲ得ザル轉所ハ出張檢此例ニアラ
 ス

第八十八條 千八百五十六年四月三十日ノ法ニ於テ廢ス

第八十九條 諸法衙ノ構制ハ法章之ヲ定ム

第九十條 法ニ掲タル條規ニ從ヒ能力アリトスル者ニ非レハ法官ニ
 任スルヲ得ズ法學三年試ヲ經ルコト一年試ヲ經更ニ試業代人ヲ
 工裁判官保安裁判官ハ此例ニアラス

第九十一條 商事工事ノ爲ノ裁判所ハ其要用ナル地方毎ニ必ス法章
 ニ由テ建設スヘシ商事裁判所工事裁判所ヲ新設スルニ亦議院ノ決ヲ取ル○此裁判所ノ構制及
 權限官員ノ撰任職務ノ權利及期限ハ法章之ヲ定ム

第九十二條 全普魯西國ニ唯一ノ大法院ヲ置ク大法院伯耳靈府ニ在
 十九人○往時大法院ニアリ其一伯耳靈ニ在リ其一コロヌニ在リコ
 ロヌニ在ル者ハ以テ來因部諸州佛蘭西ノ民法ヲ用フルノ地方ヲ待
 ツ千八百五十二年合シテ一トナスコロヌ舊法院
 ノ事務ハ唯伯耳靈大法院ノ一局之ヲ處行ス

第九十三條 民事刑事トナク法衙ノ訟庭ハ公行トス衆人公聽○內行
 事件ノ男女ノ爲ニハ公行ヲ停ムルヲ得公聽ヲ許サザルコトヲ得廉

第九十四條 重罪ニ付テ被告人有罪ノ判断ハ陪審ニ屬ス但議院ノ法
章特例ヲ定ル者ハ此限ニアラス逆罪ノ特置法院ニ於テ審判スル者 ○陪審ノ制ハ法
章之ヲ定ム平人十二人ヲ抽撰シ以テ犯人ノ有罪若クハ無罪ヲ斷セシム之ヲ陪審トス

第九十五條 逆罪及國ノ内外安寧ヲ害スルノ重罪ニ付テハ兩院ノ前
可前可トハ事前許可ナリテ特置法院ヲ命スルヲ得伯耳靈府ノ
テ特置法院トシ一院分テ二部トシ
一部論告シテ一部審裁ス

第九十六條 諸法衙ト政部官諸務及トノ權限ハ法章之ヲ定ム ○諸法
衙ト政部官トノ際ニ起ル所ノ權限ノ爭ヲ決スル爲ニ一ノ法院ヲ設
ク權限裁判是ナリ參議院ノ上席人ノカ長官トシ大法院法官
數員政部官數員ヲ以テ之ニ充ツ以テ兩平ヲ持ス

第九十七條 文武官吏職權ノ姦弊ヲ以テ即チ職務
罪アリ 法衙ニ提喚スルノ
約束ハ法章之ヲ定ム法衙ニ於テ職務罪ヲ治ルハ各種約束アリ告訴
權目代ニ限リ其平民ニシテ私訴スル者ハ賦

稅貨財事件ヲ除クノ外之ヲ本屬政官ニ訴フヘキノ類是ナリ此ヲ以
テ司法官ノ行政官吏ヲ侵逼シ及平民私怨ヲ以テ公事ヲ支障スルヲ
防クナリ但官吏ノ私然本屬長官ノ前可ヲ求ル 衙舊法
法 文武官吏ヲ提喚スルニ先ツ其官吏本
屬長官ノ承認ヲ要ス今廢シテ用ヒス

第一百十六條 現存スル兩箇ノ大法院ハ之ヲ一ニ合スヘシ其構制ハ別
法之ヲ定ヘシ

○澳地利

第五篇第一條 凡國內ノ裁判ハ皇帝ノ名ヲ以テ決行ス上下等法院ノ
處斷ハ皇帝ノ名ニ於テ行フ

第二條 法院ノ構制及權任ハ法律ヲ以テ定ヘシ ○法律ニ定タル場合
ヲ除クノ外審判ヲ行フカタメニ非常法衙ヲ設ルヲ得ス

第三條 軍兵法院ノ權任ハ別法之ヲ定ヘシ

第四條 警察條例ニ背キ及租税ニ關スル犯罪ヲ審判スルニ任スル裁判權ハ法律ヲ以テ定ヘシ

第五條 判司ハ皇帝若クハ皇帝ノ名ヲ以テ終身其職ニ任シ轉移スヘカラス

第六條 判司ハ不羈獨立ナリ法律ニ揭タル場合ニ於テシ及公正ナル審判ノ故ニアラサレハ之ヲ免黜スルヲ得ス○法院ノ長官若クハ上等法院ノ命令ニ因ルニ非レハ判司ヲ停職スルヲ得ス但同事ニ訴事ヲ當該ノ判司ニ移スヲ要ス法律ニ定タル場合ニ於テシ且之ニ揭タル規程ニ準シ審判ニ由リ本人願ハサル轉所若クハ退老ヲ命スルモ亦之ニ同シ○此條規ハ法院構成ノ改革ニヨリ已ムヲ得サル

轉所若クハ退老ニ準用スヘカラス

第七條 法ニ循ヒ公布シタル法律必行ノ力ノ有無ヲ論スルハ法院ノ權ニアラス然レ法院ハ法ニ適スル爭訟ノ斷按ノ當否ヲ審判スルヲ得

第八條 凡司法ノ官吏ハ建國法ヲ遵奉シ苟モ犯スナキヲ誓約スヘシ

第九條 成規ノ訴訟手續ヲ破リ職ヲ執ルヲ正シカラサル司法官ヲ劾告スルヲ得但劾告ノ權ハ別法之ヲ定ヘシ

第十條 民事刑事ノ別ナク裁判ヲ任セラレタル判司ノ前ニ於テスル訴訟ハ言語ヲ以テシ及公行トス○何レノ場合ニ於テモ右ノ通規ニ拘ハラステ例ヲ用ユルヲ得ヘキヤハ法律ニ於テ之ヲ定ム○刑事ノ

訴訟ニハ檢職ヲ置クヘシ

第十一條 法律ニ由リ重刑ニ抵ツヘキ罪凡テ重輕國事犯若クハ著刻

犯罪ハ陪審官其罪ヲ決ス

第十二條 帝國議會ノ代理スル王國及部屬ノタメニ百エニ区澳地利 京都

第十四條 凡訴訟ニ於テ司法上ノ事件ハ行政上ノ事件ト區別ス

第十五條 凡行政官既成ノ法律ニ因リ又嗣後制定ヘキ法律ニ因リ人

民相互ノ訴告ヲ裁決スルノ權ヲ有スル場合ニ當リ此裁決ニ由リ權

理ヲ侵サレタル一方ノモノハ司法上ノ普通手續ヲ以テ自由ニ相手

方ノ者ニ對シ控訴スルコトヲ得○此場合ノ外ニ於テ行政官ノ裁決ニ

由リ權理ヲ侵サレタル者ハ凡テ行政官ノ代理人ニ對シ行政裁判上

廳ニ控訴シ公ニ言語ヲ以テ論辨スルコトヲ得○行政裁判上廳ニ於テ

審理スヘキ場合及其設立并ニ訴訟手續ハ別法之ヲ定ヘシ

第六篇第一條 帝國議會ノ代理スル王國及部屬ニ於テ權限抵觸ノ訴

及公權ノ訴件ヲ審斷スルカタメニ帝國法院一箇所ヲ設置ス

第二條 帝國法院ハ左ニ掲ル權限抵觸ノ訴ニ於テ終審ノ裁判ヲ行フ

第一 法律ニ由リ定タル場合ニ於テ某ノ訴ハ司法上ノ手續又行政

官トノ間ニ起リタル權限抵觸

第二 雙方ニテ一ノ行政訴件ヲ決裁スルノ權アリト求ル州會ト

太政官局トノ間ニ起リタル權限抵觸

第三 州官ノ監察及管理スヘキ事務ニ於テ數部ノ州政官ノ間ニ起

九百五十五

リタル權限抵觸

第三條 帝國法院ハ又別ニ左ノ兩件ヲ裁斷ス

第一 帝國議會ノ全部ニ對シ其代理スル王國部屬及代理スル王國部屬ニ對シ帝國議會ノ全部ヨリ起シタル訴等ノ諸王國部屬中ノ一ヨリ他ノ王國部屬ニ對スル訴及通常ノ司法手續ニテ裁審スルヲ能ハサルハ諸王國部屬中ノ一方ニ對シ邑郷又人民ヨリ起シタル訴

第二 法律ニ由テ定タル行政上ノ手續ヲ以テ裁決セラレタルハ建國法ニ因リ保固シタル政權ヲ破ルトシテ國民ヨリノ訴

第四條 帝國法院ハ某ノ訴件ハ該法院ノ權限内ニ在ルヤ否ヲ判決スル無二ノ判司ナリ凡帝國法院ノ裁斷ハ控訴及通常ノ司法手續ヲ以

テ上告スルヲ得ス○帝國法院ヨリ訴件ヲ普通判司又行政官ニ移シタルハ該判司若クハ行政官ハ其權限外ヲ辭トシテ審判ヲ拒ムヲ得ス

第五條 帝國法院ハ維也納府ニ設置ス該法院ノ官吏ハ議長副議長各一名皇帝ノ命ヲ以テ終身官ニ任ス僚員十二名副員四名亦皇帝ノ命ヲ以テ終身官トナス但之ヲ撰舉スルノ方法ハ下院ノ被撰人中ヨリ僚員六名副員二名上院ノ被撰人中ヨリ亦僚員六名副員二名ヲ撰用ス○推薦ハ撰用スヘキ官員一名ニ對シ法律學ニ明カナル被撰人三名ヲ薦ムルヲ制トス

第六條 帝國法院ノ構制訴訟手續及裁斷ノ決行ハ別法之ヲ定ヘシ

○米利堅

第一條第七節六 議員都テ不ンピーチメン止糾問ノ事ヲ司ルヘキ爲
ニ會スルルハ各誓ヲ爲ヘシ而シテ合衆國ノ大統領其糾問ニ逢フル
ハ司法總裁之ヲ掌ルヘシ總シテ其席ニ列スル議員三分ノ二協合ス
ルニ非レハ何人ト雖モ之ヲ罰スヘカラス

第七節七 右糾問ノ裁判ハ官ヲ免シ及合衆國ノ位任職務等ヲ廢黜ス
ルニ過クヘカラスト雖モ罪明白ナルルハ其律ニ從ヒ之ヲ刑スル
アリ

第十三節第六 合衆國証書并ニ通貨ヲ贋造スルノ刑ヲ備ヘル事

第十三節第九 大法局ノ下小法局ヲ立ル事

第十三節第十 海賊及洋中ニテ犯ス死罪并ニ萬國公法ニ背ク罪ヲ判

チ之ヲ刑スル事

第三條第一節 合衆國執法ノ權ハ之ヲ一大法局并ニ議員隨時定ル小
法局ニ付シ而シテ大小法局判官行正シケレハ永ク其職ヲ保チ其勞
ニ報酬ヲ受ケ在官中其俸増減アルヘカラス

第二節一 執法ノ權ハ此憲法合衆國法度及外國定約上ヨリ起ル法度
律例ヨリ使節及他ノ公使領事官等ニ係ルコトニ及海軍局并ニ海上律
及外國ト合衆國若クハ二三州ノ間爭端ヲ開キ或ハ一州ト他州ノ人
民又他州ノ人民ヨリ獲ル所ノ土地ヲ相爭フ同州ノ人民或ハ一州又
其人民ノ間又外國或ハ其人民ノ間ニ起ル訴訟ヲ裁斷スルコトニ及フ
ヘシ

第二節二 使節他ノ公使及領事官ニ係リ或ハ州間ノ爭論等ニ於テハ

都テ大法局其裁判ヲ掌リ前ニ記載シタル他ノ争端ニ付テ其實ヲ舉
ケテ法ヲ斷スルニ於テハ設立スル法則ノ外悉ク小法局ニテ之ヲ司リ
大法局ハ唯其決ヲ取ルノミ

第二節三 不ンビ―チメン止ヲ除キ他ノ諸罪糾問ハ都テシユリ止ヲ
用ヒ糾問ノ罪ヲ撰舉ニ逢ヒ私ヲ捨テ公ニ乘ルヲ誓 又罪ヲ犯ス所ノ地
ニ於テ其人ヲ詰問スヘシト雖モ若シ其罪州内ニ起ラサレハ議院ニ
テ定ル處ニ於テ糾問スヘシ

第三節一 合衆國ノ逆罪ハ其政府ニ背キ戰ヲ興シ或ハ其敵ニ與シ又
之ヲ助ケ或ハ衣食住ヲ給シテ之ヲ救フ等ナリ總シテ何人ト雖モ二
人以上其罪跡ヲ確証シ或ハ裁判所ニ於テ自ラ其罪ヲ白狀スルニ非
レハ敢テ逆罪ニ斷スヘカラス

第三節二 議院逆罪ヲ刑スルコトヲ議スルノ權アリト雖モ死後其人ヲ
戮殺シ或ハ其財ヲ沒收スヘカラス

第四節第一節一 各州互ニ其布令記録及裁判ノ處置等全ク之ヲ信用
スヘク又議院宜ク一般ノ定則ヲ立テ其記録及裁判ノ處置等ヲ確証
スヘシ

第二節二 何州ニテモ逆罪死罪或ハ他ノ罪名ニ逢ヒ他州ニ遁レ去リ
其州行政官ヨリ之ヲ乞ハ、即チ之ヲ其遁ル、所ノ州ヨリ其罪ヲ掌
ル所ノ州ニ渡スヘシ

補正第六條 庶罪糾問ノ其罪ヲ問ハル、人罪ヲ犯シタル所ノ州郡
ノ公平ナルシユリ止ニ因リ速ニ其穿鑿ヲ受ヘシ尤其罪狀ハ州郡ニ
テ法ニ因リ豫メ確知セスンハアルヘカラス且其責メラル、所ノ罪

狀及其原因ヲ知り己ノ爲ニ害アル証ヲ立ツル者ニ對決シ勉テ己ノ爲ニ利アル証ヲ立ル者ヲ求メ又己ヲ防ク爲ニコンサシ裁判ノ罪ケ助ヲ與ノ助ヲ受ヘシ人ニ教ヲ授フル人

第七條 通法ノ訴訟ニ於テ互ニ相争ヒ其償二十元ニ過キサルハシユリシニ因テ穿鑿ヲ受ルノ權ヲ存ス可シ而シテ其シユリシニ由テ穿鑿セシコトヲ通法ノ定則ニ從テ之ヲ爲スニ非レハ合衆國何等ノ裁判局ト雖モ再ヒ穿鑿スヘカラス

第八條 過當ノ過料ヲ嬰シ又非常ノ罰金ヲ當テ或ハ過刻不用ノ嚴刑ヲ行フヘカラス

第十條 漫ニ合衆國執法ノ權ヲ牽強シ他州ノ人民或ハ外國ノ人民ニ因テ法度憲法ニ付發スル所ノ訴訟ヲ斷スルコトニ横充スヘカラス

○白耳義

第九條 何等ノ刑モ法章ニ由ルニ非レハ之ヲ設ケ及之ヲ科スルコトヲ得ス王命ハ刑ヲ設ルコトヲ得ス刑ヲ設ルハ必ス法章ニ由ル

第三十條 司法權ハ上下裁判所ニ由テ之ヲ行フ政府干冒スルコトヲ得ス

第九十二條 凡民權ニ係リタルノ争訟ハ專ラ諸法衙ノ管理ニ属ス下代議士ヲ投撰スルノ争ハ地方議會之ヲ決スルノ類之ヲ政權ノ訟トス本條之ニ對シテ云フ

第九十三條 凡政權ニ係リタルノ争訟ハ法章ニ由テ定タル特例ヲ除クノ外諸法衙ノ管理ニ属ス

第九十四條 一ノ法衙モ一ノ裁判權モ法章ニ依ルニ非レハ設立スルコトヲ得ス○何等ノ名義タリモ非常審吏非常法衙ヲ設ルコトヲ得ス司法

ノ權ヲ奪ヒ以テ私ヲ濟スカ爲ナリ

第九十五條

白耳義全國ノ爲ニ一ノ大審院ヲ置ク○大審院ハ事件ノ

按據ヲ受理セスト唯聽斷規程ニ違フ者ト裁決法律ニ乖ク者但諸執政

ノ裁判ハ例ニ非ラス諸執政ノ職務罪ハ大審院其事按テ推理ス

第九十六條

諸法衙ノ訟廷ハ公行トス衆人公聽但世治若クハ内行

ノ爲ニ害アルヘキ者ハ例ニ非ラス國事犯兇徒聚衆ノ類ハ訟廷ノ公行以テ世治ヲ破ランコトヲ恐レノ男

女ノ訟ハ以テ其人ノ休而シテ其時ニハ裁判ニ由テ裁判宣告ノ法衙

ヨリ公行ヲ停ムルコトヲ宣告ス○國事犯及著刻犯著刻犯大抵ニ係テ

ハ陪審ノ合員同意十二人同意ニ非レハ閉戸ヲ宣告スルコトヲ得ス閉戸

ハ公行ヲ停ムルヲ謂

第九十七條

凡裁判ハ理由ヲ附ス此ノ如キ事理ニ由テ此ノ如ク判決スルヲ謂ナリ裁判宣告ノ文ハ必ス

其理由ヲ掲ク

第九十八條

凡重罪及國事犯著刻犯ニハ陪審ヲ設ク國事犯著刻犯ハ輕罪ト雖亦陪

審ヲ置ク

第九十九條

保安法官及諸裁判所始審裁判所ノ法官ハ國王直ニ之ヲ任

ス○控訴院ノ評事官即チ法官及始審裁判所ノ長官及副長官ハ上院及大

審院ヨリ各進ムル所ノ二ノ薦名表ニ依リ數人ノ名ヲ薦メ國王ノ撰

一ハ評事官ノ爲ニシ一ハ裁判所長國王ノ撰ノ爲ニス故ニ二ノ薦名表トス

控訴院ノ評事官ト始審一ノ名表ニ載セタル撰士又它ノ名表ニ載ス

裁判長官ヲ撰フノ由

ルコトヲ得○凡薦名ハ宣任ヨリ少クモ十五日日前ニ公布ス○法院大審院

訴院ハ法官中ヨリ其長官及副長官ヲ撰フ自ラ其長ヲ撰ス

第百條 法官ハ終身ヲ以テ任ス○法官ハ審判ニ由ニ非レハ公然ト審

判ヲ受フ職ヲ免シ及職ヲ停ムルヲ無シ職ヲ存シテ務ヲ行ハス之ヲ停職トス○新任人員アリテ新員アルヲ以テ本人許諾スルニ非レハ新員アリト云レハ亦轉所セハ亦轉所セハ亦轉所アルヲ得ス

第二百二條 司法官ノ俸給ハ法章之ヲ定ム

第二百三條 法官ハ政府ヨリ俸給アルノ職ヲ兼ネ受ルヲ得ス但法章

二官相兼ネサルノ例ヲ特定スル者ヲ除クノ外ハ俸給ヲ受スシテ職ヲ兼ヌルヲ得法官兼議員タルヲ得サルノ類二官相兼チサルノ定例トス

第二百四條 白耳義全國ニ三ノ控訴院ヲ置ク○法章其管理ノ區分及建置ノ地ヲ定ム其下下等裁判所

第二百五條 別法軍法司ノ構制及權任軍法官ノ權務及任期ヲ定ム○法章ニ定タル各地方ニ於テ商事裁判所ヲ置ク○法章商事裁判所ノ構

制及權任及裁判官任命ノ法式及其任期ヲ定ム

第二百六條 大審院ハ法章ニ定タル法式ニ從テ權限ノ爭ヲ決ス各裁判所權限

ノ爭ヲ云

第二百七條 各法院各裁判所ハ諸執政ノ指令及普通ノ條例各州ノ條例

各邑ノ條例ニ於テ並ニ議院ノ議決ヲ經スシテ諸執政若クハ地方官ノ手ニ出ル者其法章ニ合スル者ニ非レハ處行セス法官ハ法章ヲ處行スル者ニシテ行政

第二百三十四條 法章ニ由テ掲定スルニ至ルマテ代議士院ハ執政ヲ論

告スル爲ニ及大審院ハ其罪ヲ斷シ刑ヲ科シ之ヲ判決スル爲并ニ專

行ノ權ヲ有スヘシ專行ノ權トハ其所見ニ從ヒ專獨處行シ他ノ檢束

置キ倣ヒ大臣犯罪ノ爲ニ特設トスルヲ云然レ刑法特ニ掲ケタル事件ニ非レハ罪ヲ科スルニ禁役ヲ越ユルヲ得ス禁役ヲ越ユル以上ハ臨時議

設メナリ

第三百三十五條

大審院
控訴院

諸法院ノ官吏ハ法章ニ由テ掲定スルニ至ルマ

テ現在スル所ニ依ル此法章ハ必ス議院第一會ノ間ニ議定スヘシハ

百三十二年八月即チ建國法
公布ノ明年ニ於テ議定ス

第三百三十六條

上條ト同時ノ議會ニ於テ又一法ヲ議シ大審院員初次

ノ撰任ノ規程ヲ定ヘシ大審院創始ニ係ル故
ニ初次ノ撰任ヲ要ス

○瑞典

第十七款

王室ノ特權タル裁判無上ノ權ハ之ヲ法律學ニ通曉シタル

人物ニ委任スヘシ其人ハ國王宣命シ十二員以上十八員以下ノ人數

ニ限リ之ヲ撰ニハ須ク學識アリ事ニ熟練シテ誠實果シテ其職ニ愧

チサルヤヲ鑑定スヘシ○此法官ハ司法大臣ノ名爵ヲ賜リ乃チ其人

ヲ以テ政府ノ大法院ヲ成サシムヘシ此法官ノ人數ハ十二員ニ過ク

ヘカラス但第八十七款第一章ニ掲ルカ如ク國王ト議院ト協議ノ上

ニテ大法院ヲ分チテ諸局ト爲スルニハ法官ノ員數モ其事務ノ分課

ニ齊シク之ヲ改定スルコトアルヘシ

第十八款

訴訟ニ關係セル者裁判ヲ受タル上上告ノ期限ヲ經過スル

モ法律ニ於テ受用スヘキ權利ヲ請求スルルハ大法院ノ職掌ヲ以テ

國王ノ名ニ據リテ公知シ遲延ノ爲ニ訴訟ノ權ヲ奪ワル、コトヲ宥免

スヘシ

第十九款

司法官吏ヨリ國王ニ法律ノ眞意ノ講明ヲ請求スルコトアル

ニ當テ果シテ其按件ハ判斷ノ部ニ屬スルルハ大法院ノ職掌ヲ以テ

請求シタル意味ヲ講明スヘシ

第二十款 軍事裁判所ニ於テ判斷シタル按件ヲ國王ノ檢査ニ供スル
キハ戰時ニ非ルヨリハ之ヲ大法院ニ附シテ決斷セシムヘシ其爲ニ
國王ハ特ニ高位武官二員ヲ撰ンテ此事ニ參預セシムヘシ此武官ハ
他ノ法官同様ニ其責ニ任シ特恩ヲ仰カスシテ大法院ニ出席シテ判
斷ノ討論ニ參與スヘシ但法官ノ員數ハ八人ニ過クヘカラス○戰時
ニ方テハ右様ノ按件ヲ決定スルニ全ク軍律ニ依ルヘシ

第二十一款 國王ノ意ニ於テ大法院ヲ扶クルニ適當ナリト考フルキ
ハ其按件ノ關係ト決斷トニ就テハ二個ノ發言ヲ得ヘシ且法律ヲ解
釋スルコトニ至テハ一議一論皆國王ニ奏聞シ而シテ國王ハ大法院ノ
議論ニ預ラサルキト雖モ其發言ヲ計算セサルヘカラス

第二十二款 重大ナラサル按件ハ大法院ノ法官五員ニテ考檢シ決斷
スヘシ五員ノ中四員同意スルキハ四員ニテ決斷シテ妨ケナシトス
然モ重大ノ按件ニ至リテハ必ス七員ノ列席ニ非レハ裁判ヲ爲ヘカ
ラス但八員以上ニテ一按件ヲ吟味スヘカラス

第二十三款 凡テ大法院ノ決斷ハ國王ノ名ヲ以テ施行シ之ニ御諱ヲ
署シ或ハ印璽ヲ鈐スヘシ

第二十四款 凡テ司法ノ按件ハ先ツ小法院ノ檢務課ニテ仕出シ大法
院ニ報シテ其決斷ヲ仰クヘシ

第二十八款 王國ノ文官ニテ判事職ノ如キハ清淨眞教ノ人物ノミヲ
撰用スヘシト雖モ文藝貿易并ニ醫術ノ學校ニ於テ教授ノ職ニ任ス
ルハ他教ノ者ト雖モ敢テ妨ケナシ○各省ノ長官タル者ハ其所管ノ

官吏ノ黜陟補缺等アルキ之ヲ奏聞シテ裁置スヘシ

第一百款 若シ希望スル所ニ反シテ大法院ノ判事總体或ハ其内ノ一員又數員私ノ利害愛憎ニ依リ又其怠慢ニ依リテ正シク法律ヲ解明スルコトナク又事實ノ確証ヲ取ルコトナク判然公平ヲ失シテ權利ト道理トヲ顧ミス之カ爲ニ人民ノ性命一身ノ自由并ニ名譽財産ヲ奪却シ又損害ニ到ルコアルニ於テハ乃チ議院ノ大檢事ト王室ノ大檢事ト連合シ下款ニ掲ル所ノ法院ニ該犯人ヲ召出シテ糾彈シ王國ノ律ヲ以テ之ヲ懲罰スルノ權アルヘシ

第一百二款 此法院ハ王國ノ大審院ト稱シテ前款ノ如キ按件ヲ審判スルキニハ都府又トクトシ法院首局ノ長官之カ長ト爲リ其他諸行政局ノ長官内閣大臣ノ筆頭四員都府守衛ノ總督都府碇泊艦隊ノ提督

都府小法院首局ノ判事筆頭二員王國行政諸局官吏ノ筆頭各一員裁判ノ席ニ列スヘシ若シ王室或ハ議院ノ檢事ノ職掌ニ於テ王國ノ大審院ニ總体ノ犯人又其中ノ一員ヲ召出シ糾彈スルキハ都府小法院首局ノ長官即チ大審院ノ長タルヲ以テ其手ヲ經テ糾彈スヘキ犯人ノ召票ヲ發出スヘシ○小法院首局ノ長官ハ右檢事ノ通知ヲ得タル上ニテ大審院ヲ開ク處置ヲ爲シ召票ヲ發遣シ其外凡テ法律ヲ照シテ按件ヲ辨理スヘシ○若シ希望スル處ニ反シテ此官ノ怠慢ニ依リテ前文ノ處置ヲ爲サス或ハ前文ノ諸官吏大審院ニ出頭スルコトヲ否ムキハ乃チ國法ヲ按シテ無故官職ヲ怠リシ罪ヲ以テ其人ヲ罰スヘシ○若シ大審院ニ出頭スヘキ官員ノ内法律ニ依リテ出席ヲ止ラレ又其缺席ヲ聞届クヘキ者アルキハ十二員ノ出頭ヲ以テ之ヲ開クニ

足レリトス○若シ都府小法院首局ノ長官法律ニ依テ出席ヲ止ラレ
又其缺席ヲ聞届クヘキハ其時在職セル他ノ長官ノ筆頭其代ト爲
ルヘシ○糾彈ノ了畢リ法律ヲ按シテ判斷畢ルキニハ大審院ヨリ其
按件ヲ公告スヘシ○誰何ニ拘ラス大審院ニテ召捕シタル者ヲ赦免
スルノ權利ヲ有スルヲナシ○罪犯赦免ノ權利ハ國王ニ付托スル處
タリト雖モ一ヒ刑罰ヲ受ケシ者ヲ官途ニ登庸スヘカラス

第六百六款 若シ政体課ニ於テ草按ヲ檢シタル上ニテ内閣大臣ノ内或
ハ其奏者或ハ軍機ニ就キテ國王ノ謀議ニ參與シタル官員ノ所業判
然ト憲法又現今行ル、處ノ國律ニ戻リ或ハ法律ニ背クヲ承諾シ
或ハ怠慢シテ無法ノ舉ヲ諫争セス或ハ其不義ヲ知ルト雖モ故意ニ
之ヲ隱シテ其舉ヲ贊成シ或ハ第三十八款ノ條例ニ基キテ奏者國王

非理ノ決議ニ姓名ヲ署スルヲ否ムヘキヲ怠慢シタルヲ見出ス
ニ於テハ此課ノ職掌トシテ議院ノ檢事ニ通知シテ右ノ犯人ヲ大審
院ニ召シテ糾彈セシムヘシ但此裁判ニハ内閣大臣ヲ除キ其代ニ大
法院ノ判事筆頭四名ヲ列席セシムヘシ○其他ノ手續ハ第一百一款第
百二款ニ掲ケシ如ク總テ大法院ノ判事ヲ糾彈スル例ニ從フヘシ○
内閣大臣或ハ軍機ニ就キテ國王ノ謀議ニ參與シタル者本文ノ條例
ニ依リテ罪ヲ犯スルニハ大審院ニ於テ現今所行ノ律例ヲ照シ或ハ
臨時ニ國王ト商議シ其責ニ相當シタル規則ニ基キテ之ヲ裁判スヘ
シ

○西班牙

第六十五條 民事刑事ニ於テ法律ヲ施行スルノ權ハ特ニ上下等裁判所ニ屬ス增補律例第一條參看然レ上下等裁判所ハ審判及審判ノ決行ヲ看守スルノ外他ノ職掌ヲ行フコトヲ得ス

第六十六條 上下等裁判所ノ數并ニ種類各裁判所ノ構制權任其權任ヲ執行スヘキ方法及裁判官ニ屬スヘキ權理等ハ法律之ヲ定ム

第六十七條 刑事ノ裁判ハ法律ニ於テ定ル所ノ規程ニ循ヒ之ヲ公行スヘシ

第六十八條 凡裁判官ハ決行スヘキ審判ヲ以テスルノ外有期若クハ無期ノ時間其職ヲ視ハル、コナシ又司法官ノ決裁裁判所議長若クハ決裁等ヲ云フヲ以スルカ又國王令ヲ下シ且憑據ヲ帶ヒテ罪狀アル裁判官ヲ當該ノ裁判所ニ訴告スルル外裁判官ノ職ヲ停止スルコトヲ得ス

第六十九條 凡裁判官法律ニ違犯スルコトアルルハ各自其責ニ任ス

第七十條 審判ハ國王ノ名ヲ以テ之ヲ行フ

增補第十二條 國王大小裁判官ヲ免職シ其老退ヲ命シ及非職トナシテ其紀律ヲ正フスルコトヲ得ルノ時機及之ヲ行フノ規程等ハ法院ノ整理法國憲ニ於テ既ニ其基礎ヲ定タル制度ノ方法施行ヲニ依テ之規準シ國家ヲ整理經綸スルコトヲ旨トスル法律ヲ云ヲ定ヘシ

○瑞士

第五十三條 何人モ正當裁判官ヨリ阻隔セラル、コナシ是故ニ臨時裁判所ヲ設立スルコトヲ得ヘカラス

第五十四條 國事犯ノ爲ニ死刑ヲ言渡スコトヲ得ヘカラス

第五十五條 甲邦ヨリ乙邦ニ犯罪人ヲ解回スルコトハ聯邦ノ法律ヲ以テ之ヲ規定ス然レ國事犯及蓄刻犯ニ對シテハ其解回ヲ以テ必行スヘキ者トスルコトヲ得ス

第九十四條 聯邦裁判所一箇所ヲ置テ聯邦ノ按件ヲ判理ス○刑事ヲ治ムルニハ更ニ陪審官ヲ設ク

第九十五條 聯邦裁判所ハ官員十一名及法律ニ由リ員數ヲ定ル所ノ補官ヲ以テ成ル

第九十六條 聯邦裁判所ノ官員及補官ハ聯邦議會ヨリ撰舉シテ三歳間其職ニ任ス又國議會更撰ノ後毎ニ聯邦裁判所ノ全員ヲ更迭ス○三歳ニ滿タスシテ裁判所ノ官員缺クルキハ聯邦議會ノ第一次會期ニ於テ之ヲ填補シ以テ其任期ノ滿ツルニ至ル

第九十七條 國議會ニ撰マルヘキ瑞士國人ハ皆聯邦裁判官ニ舉ケラル、コトヲ得聯邦行政會及該行政會ノ命シタル官吏ハ裁判所ノ官職ニ兼任スルコトヲ得ス

第九十八條 裁判所ノ長及副長ハ該裁判所ノ僚員中ヨリ聯邦議會之ヲ命シテ各一年間其職ニ任ス

第九十九條 裁判所ノ官員ハ聯邦ノ金庫ヨリ償給ヲ受ク

第一百條 裁判所ハ書記局ヲ設置シテ其官員ヲ命ス

第一百一條 聯邦裁判所ハ民事裁判所トシテ左ノ件ヲ審理ス

第一 公權ニ關スル者ニ非スシテ列邦相互ノ間若クハ聯邦ト列邦トノ間ニ起リタル爭訟

第二 聯邦政府ト會シ又平民ノ間ニ起リタル爭訟但又平民ノ原告

人トナリ聯邦ノ法律ニ定ムル所ノ重大ナル事件ニ限ル

第三 無籍人ニ關スル争訟

右第一項ニ記載スル場合ニ於テハ聯邦行政會ヲ經由シテ裁判所ニ訴出ス若シ聯邦行政會ニ於テ其事ノ聯邦裁判所ノ所轄ニ屬スルヤ否ヤヲ確知セント決スルハ聯邦議會ニ於テ裁判權限ノ抵觸ヲ裁定ス

第二百二條 聯邦裁判所ハ原被雙方相協フテ之ニ審判ヲ委托シ且争論スル所ノ物價聯邦ノ法律ニ定ル金額ヲ大ニ踰ユルハ前條ニ記載スル所ヨリ外ノ訴訟ヲモ受理セサルヘカラス此場合ニ當リ訴訟入費ハ全ク原被雙方ヨリ辨償セシム

第二百三條 聯邦裁判所ニ於テ刑事裁判所トシテ施行スル所ノ者ハ嗣

後制定スル所ノ効告重罪裁判所及破毀裁判ニ關スル聯邦ノ法律ニ由テ規定スヘシ

第四百條 重罪裁判所ハ事實ヲ斷決スル陪審官ト共ニ左ノ件々ヲ審理ス

甲 本人ヲ命シタル聯邦政官ヨリ刑事裁判所ニ訴ヘラレタル官吏ニ關スル罪

乙 聯邦ニ對シ謀叛スルノ罪聯邦政官ニ對シ背犯又暴行ノ罪

丙 萬國公法ニ對スル重罪并ニ輕罪

丁 聯邦ヲシテ兵ヲ以テ關與セシムルニ至リタル騷亂ヲ起シ若クハ其騷亂ニ由テ犯シタル國事犯

聯邦議會ハ右ニ記載スル重罪及輕罪ニ對シ何時ニテモ大赦又特赦

ヲ與フルコトヲ得

第二百五條 此外聯邦裁判所ハ此國憲ニ由リ保固シタル權理ノ侵害ニ付テ之ヲ審理ス但聯邦議會ヨリ該裁判所ニ該按件ヲ移セシ時ニ限ル

第百六條 第百一第百四第百五條ニ記載スル場合ノ外又聯邦ノ法律

ニ由リ他ノ按件ヲ聯邦裁判所ノ權任ニ置クコトヲ得

第百七條 聯邦ノ法律ヲ以テ左ノ條件ヲ規定スヘシ

甲 聯邦檢事職ノ構制

乙 聯邦裁判所ノ權任ニ置クヘキ輕罪及準用スヘキ刑法

丙 公行及言論スヘキ聯邦訴訟手續ノ法式

丁 訴訟入費ニ關スル事件

○葡萄牙

第百十八條 司法權ハ不羈獨立ニシテ法典ニ定ムル時機ニ際シ及之ニ定ムル規程ニ循ヒ民事並ニ刑事ヲ審理スル裁判官及陪審之ヲ執行スヘシ

第百十九條 陪審ハ訴件ヲ決判シ裁判官ニ法律ヲ擬準ス

第百二十條 法司律ヲ擬シテ罪ヲ決セス故ニ法司ト名ク其員百四十ニ當ルハ轉移スヘカラスニ終身官然レ法律ニ定タル時機ニ際シ及之ニ定タル方法ニ循テ裁判官ヲ免黜スルコトヲ得ヘシ

第百二十一條 法司ヲ訴告スル者アルハ國王之ヲ聽キ仍ホ參議院ノ意見ヲ問フテ後之ヲ停職スルヲ得但該訴告ニ關スル書類ハ被告

ノ法司ニ屬スル所ノ州裁判所ニ移シ法律ニ循ヒ以テ處行セシムヘシ

第二百二十二條 被告ノ法司ハ裁判所ノ決按ニ因ルノ外其職ヲ剝奪セラル、コナカルベシ

第二百二十三條 凡法司及區裁判司等ハ擅權若クハ其職務服行ニヨリテ犯セル私行ノ責ニ任ス但此責任ハ定規法律ニ依リ實行スヘシ

第二百二十四條 法司下等判司等誘惑收贓官金私用及枉斂ノ罪事アル

キ人民ヨリ訴告スルコアルヘシ但該訴告ハ法律ニ定タル訴訟手續ニ依據シ犯罪ノ日ヨリ滿一年內ニ被告人若クハ其他ノ人民之ヲ行フコトヲ得ヘシ

第二百二十五條 國民便宜ノ爲ニ須要トナスヘキ裁判所即チ控訴ヲ王裁判所

國ノ州内ニ設置シ以テ再審及終審ノ詞訟ヲ聽斷スヘシ

第二百二十六條 刑事ニ於テハ證人ヲ推問シ其他總テ効告ノ後ニ係ル訴訟手續ノ件ハ公行スヘシ

第二百二十七條 民事訴訟及民事ニ係ル審糾ニ於テ原被雙方ノ者ハ判者人民自ラ有徳者ヲ撰ミテ裁ヲ命スルコトヲ得ヘシ但原被人豫メ約者判ヲ請フ之ヲ判者ト名シ定セシコアルキハ直ニ判者ノ裁斷ヲ決行シテ控訴セサルヘシ

第二百二十八條 何レノ詞訟ト雖モ既ニ勸解ヲ經由スルコトヲ憑據セサレハ之ヲ受理スヘカラス

第二百二十九條 勸解ヲ行フカ爲ニ勸解判司ヲ置クヘシ但該判司ハ邑會ノ僚員ト在職ノ年限ヲ齊フシ且之ト同一ノ規定ニ循テ撰擧スヘシ又勸解判司ノ職掌并ニ所管裁判權ヲ行フ土地ノ境域ヲ云フハ法律ニ依テ規定ス

ヘシ

第三百十條 王國ノ首府ニ於テハ他州ト同ク尋常裁判所ヲ設置スルノ外仍ホ大法院ト名ル裁判所ヲ置クヘシ但大法院ハ在職ノ年序ニ循ヒ州裁判所ヨリ撰拔シタル裁判官及法律學士ニシテ參議官ノ稱ヲ有スル者ヲ以テ構成ス○大法院ヲ新置スルニ際シテハ當ニ廢止スヘキ裁判所ノ僚員ヲ以テ大法院ノ官吏トスルコヲ得ヘシ

第三百十一條 大法院ノ權任ニ屬スルモノ左ノ如シ

第一 法律ニ定タル時機ニ際シ及之ニ定タル方法ニ循ヒ覆審ヲ許允シ若クハ否拒スル事

第二 大法院并ニ州裁判所ノ法官及外國交際ノ官僚_{公使}等 其職事服行ニ於テ犯ス所ノ罪事及失錯ヲ審理スル事

第三 州裁判所相互ノ間ニ生シタル裁判所轄區抵觸ノ訴及其權限抵觸ノ訴ヲ受理スル事

○荷蘭

第四百十五條 凡裁判ハ全王國ニ於テ國王ノ名ヲ以テ決行ス

第四百十六條 民法商法刑法訴訟法治罪法及司法官ノ構制ハ全國ニ於テ同均トス○軍事裁判及護卿兵裁判モ亦法律ヲ以テ之ヲ定ム○租稅ニ關スル爭訟及違令ノ裁判モ同ク法律ヲ以テ定ム

第四百十八條 私有權及該權ヨリ生シタル權理負債其他凡民權ニ管スル訴訟ヲ審理スルハ特ニ司法權ニ屬ス○司法權ハ法律ニ定ル特例ヲ除キ亦政權ニ管スル爭訟ヲ審理ス

第四百十九條 司法權ハ法律ヲ以テ定タル判司特ニ之ヲ執行ス

第五百十一條 法律ニ定タル場合ヲ除キ何人ヲ論セス拿捕ノ理由ヲ

揭示スル判司ノ命令ニ由ルニ非レハ囚捕スルコトヲ得ス○判司ノ命令ハ拿捕ノキ又務メテ急ニ囚捕セラレタル者ニ送致スヘシ○法律ハ判司ノ命令ノ規式及罪人ノ糾彈ニ從事スヘキ期限ヲ定ム

第五百十二條 特殊ノ時機ニ際シ官荷蘭國民ヲ拿捕セシメタルハ其拿捕ヲ命令シタル者ヨリ即時ニ其旨ヲ地方ノ判司ニ通知シ且三日内ニ囚者ヲ之ニ解送スヘシ○刑事裁判所ハ各其所管内ニ於テ前文ニ掲ゲタル條則ノ確行ヲ監守スヘシ

第五百十六條 凡裁判ハ其理由ヲ説明シ訟庭ヲ開テ之ヲ宣告スヘシ刑事ノ裁判ハ其處斷ノ憑據スル法律ノ條目ヲ掲録ス○訟庭ハ公行

トス然レ國安及風紀ニ關スルニ由リ法律ヲ以テ定タル特例ヲ除ク

第五百十七條 全王國ニ最上等裁判所一箇所ヲ設置シ荷蘭國大法院

ト名ク該院ノ僚員ハ第五百十八條ニ循ヒ定タル應撰人姓名表ニ依リ國王之ヲ撰用ス

第五百十八條 大法院ハ缺員アルレ之ヲ國會ノ下院ニ通知ス○國王ハ下院ヨリ奏呈スル五員ノ應撰人姓名表中ニ撰ミテ其缺員ヲ補ス○國王ハ大法院ノ僚員中ヨリ其議長ヲ撰任ス大檢事ノ撰用モ亦國王ノ權ニ屬ス

第五百十九條 大法院ハ國會ノ議員各省長官州長歐洲外ニ於ル荷蘭王國ノ藩屬地若クハ所屬地ニ在テ州長ト同權ヲ有スル官吏參議院ノ僚員州ニ差遣スル國王ノ理事官等其職務ヲ執行スルニ當リ罪ア